

感染症発生動向調査事業報告書

- 平成 2 9 年版 -

山梨県感染症情報センター

目 次

事業概要

1 感染症発生動向調査事業	1
2 対象感染症	2
3 地域区分と定点医療機関数	4

患者発生状況

1 全数把握対象感染症	5
2 定点把握対象感染症	5
2-1 インフルエンザ定点から報告された感染症	7
インフルエンザ	7
(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)	
2-2 小児科定点から報告された感染症	9
RSウイルス感染症	9
咽頭結膜熱	10
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11
感染性胃腸炎	12
水痘	13
手足口病	14
伝染性紅斑	15
突発性発しん	16
百日咳	17
ヘルパンギーナ	18
流行性耳下腺炎	19
2-3 眼科定点から報告された感染症	20
急性出血性結膜炎	20
流行性角結膜炎	21
2-4 性感染症定点から報告された感染症	22
性器クラミジア感染症	22
性器ヘルペスウイルス感染症	23
尖圭コンジローマ	24
淋菌感染症	25
2-5 基幹定点から報告された感染症	26
細菌性髄膜炎	27
無菌性髄膜炎	28

マイコプラズマ肺炎	29
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	30
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	31
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	32
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	33
薬剤耐性緑膿菌感染症	34

病原微生物検出状況

1 ウイルス検出状況	35
2 細菌検出状況	36

参考資料

1 感染症発生動向調査の指定届出機関一覧	37
2 全数把握対象感染症の報告数	39
3 定点把握対象感染症の報告数と定点当たり報告数	41
4 前年（平成 28 年）との定点当たり報告数の比較	42
5 定点把握対象感染症の定点当たり報告数の推移	43
6 感染症発生動向調査の調査報告週対応表	44

事業概要

1 感染症発生動向調査事業

本事業は昭和 56 年 7 月から 18 疾病を対象に開始され、システムのオンライン化や対象疾病等の充実・拡大がされ、運用されてきた。

平成 11 年 4 月の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下「感染症法」という。)施行により、感染症発生動向調査が感染症の発生及びまん延の防止を目的として感染症施策の一つとして位置づけられ、「感染症発生動向調査事業要綱」に基づき実施されている。

平成 19 年 4 月の感染症法の改正により、発生動向調査の対象疾病の類型の見直しや結核予防法との統合等大幅な変更があり、その後、平成 20 年 1 月には「風しん」及び「麻しん」が五類感染症の定点把握の対象から五類感染症の全数把握対象疾病に変更された。5 月には「鳥インフルエンザ(H5N1)」が二類感染症疾病に追加されるとともに、感染症の類型に新型インフルエンザ等感染症が追加された。平成 23 年 2 月には「チクングニア熱」が四類感染症に、「薬剤耐性アシネトバクター感染症」が五類感染症(定点)疾病にそれぞれ追加された。

平成 25 年 3 月から「重症熱性血小板減少症候群(病原体が SFTS ウイルスであるものに限る。)」が四類感染症疾病に、同年 4 月から「侵襲性インフルエンザ菌感染症」「侵襲性髄膜炎菌感染症」「侵襲性肺炎球菌感染症」が五類感染症(全数)疾病に追加され、「髄膜炎菌性髄膜炎」は削除された。さらに 5 月から「鳥インフルエンザ(H7N9)」が指定感染症疾病に定められた。また、10 月から感染性胃腸炎のうち病原体がロタウイルスであるものについて、基幹定点の対象疾病となった。

また、平成 26 年 4 月、鳥インフルエンザ A(H7N9)について、指定感染症疾病としての指定が 1 年間延長された。同年 7 月からは、「中東呼吸器症候群(MERS)」が指定感染症疾病となった。9 月からは、「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」「播種性クリプトコックス症」「水痘(入院例に限る)」「薬剤耐性アシネトバクター感染症」が、五類全数把握対象疾病に追加された。11 月には感染症法の一部を改正する法律が公布により、「鳥インフルエンザ(H7N9)」及び「中東呼吸器症候群(MERS)」が二類感染症へ追加された。

さらに、平成 28 年 2 月には四類感染症にジカウイルス感染症疾病が追加された。

なお、平成 28 年 4 月には感染症情報収集体制強化等が国から示され、病原体定点からの病原体検出情報等の充実を図っているところである。このような本事業経過の中、県はこれまで感染症情報を週及び月単位で収集・分析し、関係機関に還元するとともに、ホームページを通じて関係者や県民に公開してきた。

平成 28 年度からは「山梨県感染症情報センター」が衛生環境研究所内に移され、患者発生状況や病原体検出情報等について引き続き広く情報提供・公開を行っている。

2 対象感染症

平成 29 年 1 月 1 日現在、全数把握対象 87 疾病、定点把握対象 26 疾病及び、法第 14 条 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症を調査対象としている。

全数把握対象（87 疾病）

	対 象 疾 病
一類感染症（7 疾病）	(1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、(4)南米出血熱、(5)ペスト、(6)マールブルグ病、(7)ラッサ熱
二類感染症（7 疾病）	(8)急性灰白髄炎、(9)結核、(10)ジフテリア、(11)重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。）（12）中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。）（13）鳥インフルエンザ(H5N1)（14）鳥インフルエンザ(H7N9)
三類感染症（5 疾病）	(15)コレラ、(16)細菌性赤痢、(17)腸管出血性大腸菌感染症、(18)腸チフス、(19)パラチフス
四類感染症（44 疾病）	(20) E 型肝炎、(21)ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む。）（22）A 型肝炎、(23)エキノкокクス症、(24)黄熱、(25)オウム病、(26)オムスク出血熱、(27)回帰熱、(28)キャサナル森林病、(29)Q 熱、(30)狂犬病、(31)コクシジオイデス症、(32)サル痘、(33) ジカウイルス感染症(34)重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属 S F T S ウイルスであるものに限る。）（35）腎症候性出血熱、（36）西部ウマ脳炎、(37)ダニ媒介脳炎、(38)炭疽、(39)チクングニア熱、(40)つつが虫病、(41)デング熱、(42)東部ウマ脳炎、(43)鳥インフルエンザ(H5N1 及び H7N9 を除く。)（44）ニパウイルス感染症、(45)日本紅斑熱、(46)日本脳炎、(47)ハンタウイルス肺症候群、(48)B ウイルス病、(49) 鼻疽、(50)ブルセラ症、(51)ベネズエラウマ脳炎、(52)ヘンドラウイルス感染症、(53)発しんチフス、(54)ポツリヌス症、(55)マラリア、(56)野兔病、(57)ライム病、(58)リッサウイルス感染症、(59)リフトバレー熱、(60)類鼻疽、(61)レジオネラ症、(62)レプトスピラ症、(63)ロッキー山紅斑熱
五類感染症（22 疾病）	(64)アメーバ赤痢、(65)ウイルス性肝炎（E 型肝炎及び A 型肝炎を除く。）（66）カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、(67)急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）（68）クリプトスポリジウム症、(69)クロイツフェルト・ヤコブ病、(70)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、

	(71)後天性免疫不全症候群、(72)ジアルジア症、(73)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(74)侵襲性髄膜炎菌感染症、(75)侵襲性肺炎球菌感染症、(76)水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)(77)先天性風しん症候群、(78)梅毒、(79)播種性クリプトコックス症、(80)破傷風、(81)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(82)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(83)風しん、(84)麻しん、(85)薬剤耐性アシネトバクター感染症
新型インフルエンザ等感染症 (2 疾病)	(111)新型インフルエンザ、(112)再興型インフルエンザ
指定感染症	該当なし

定点把握対象(26 疾病・2 疑似症：五類感染症及び法第 14 条 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症)

	対 象 疾 病
小児科定点(11 疾病)	(86)RSウイルス感染症、(87)咽頭結膜熱、(88)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(89)感染性胃腸炎、(90)水痘、(91)手足口病、(92)伝染性紅斑、(93)突発性発しん、(94)百日咳、(95)ヘルパンギーナ、(96)流行性耳下腺炎、
インフルエンザ定点(1 疾病)	(97)インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)
眼科定点(2 疾病)	(98)急性出血性結膜炎、(99)流行性角結膜炎
性感染症定点(4 疾病)	(100)性器クラミジア感染症、(101)性器ヘルペスウイルス感染症、(102)尖圭コンジローマ、(103)淋菌感染症
基幹定点(8 疾病)	(89)感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの。)(104)クラミジア肺炎(オウム病を除く。)(105)細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)、(106)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(107)マイコプラズマ肺炎、(108)無菌性髄膜炎、(109)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(110)薬剤耐性緑膿菌感染症
疑似症定点	(113)摂氏 38 度以上の発熱及び呼吸器症状(明かな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)(114)発熱及び発しん又は水疱(ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明かな場合を除く。)

3 地域区分と定点医療機関数

県内の定点把握対象五類感染症を把握するため、県では、人口及び医療機関の分布を考慮し、下表の数の医療機関を患者定点若しくは、病原体定点として指定している。(医療機関名は、参考資料の1「感染症発生動向調査の指定届出機関一覧表」を参照)

平成29年10月1日現在

		中北	峡北支所	峡東	峡南	富士・東部	計
患者 定 点	小児科定点	8	5	4	2	5	24
	内科定点	6	3	3	1	4	17
	インフルエンザ定点	14	8	7	3	9	41
	眼科定点	3	2	2	0	2	9
	STD定点	3	2	2	0	2	9
	基幹定点	3	2	2	1	2	10
	疑似症定点	18	10	9	4	11	52
病 原 体 定 点	小児科定点	2	0	0	0	1	3
	インフルエンザ定点	1	1	1	1	1	5
	眼科定点	1	0	0	0	0	1
	STD定点	0	0	0	0	0	0
	基幹定点	3	2	2	1	2	10

【定点等説明】

患者定点：定点把握対象の五類感染症の発生状況を報告する医療機関

病原体定点：病原体の分離等の検査情報の収集や病原体検査のための検査材料を採取する医療機関

小児科定点：小児科を標榜する医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）

内科定点：内科を標榜する医療機関（主として内科医療を提供しているもの）

インフルエンザ定点：小児科定点、内科定点の両者を合わせた医療機関

眼科定点：眼科を標榜する医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）

STD（性感染症）定点：産婦人科若しくは産科若しくは婦人科（産婦人科系）、医療法施行令（昭和23年政令第326号）第3条の2第1項第1号八及び二(2)の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科又は泌尿器科若しくは皮膚科を標榜する医療機関（主として各々の標榜科の医療を提供しているもの）

基幹定点：患者を300人以上収容する施設を有する病院であって内科及び外科を標榜する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）

疑似症定点：疑似症の発生状況を報告する医療機関

患者発生状況

1 全数把握対象感染症

山梨県及び全国における平成 29 年の全数把握対象感染症の報告数を「参考資料」の 2 に示した。

《一類感染症》

報告はなかった。

《二類感染症》

二類感染症 7 疾病のうち、結核（88 例）の報告があった。

《三類感染症》

三類感染症 5 疾病のうち、腸管出血性大腸菌感染症（11 例）の報告があった。

《四類感染症》

四類感染症 44 疾病のうち、A 型肝炎（1 例）、オウム病（1 例）、つつが虫病（1 例）、デング熱（4 例）、レジオネラ症（8 例）の 5 疾病 15 例の報告があった。

《五類感染症》

五類感染症 22 疾病のうち、アメーバ赤痢（4 例）、ウイルス性肝炎（4 例）、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症（5 例）、クロイツフェルト・ヤコブ病（7 例）、劇症型溶血性レンサ球菌感染症（2 例）、後天性免疫不全症候群（7 例）、急性脳炎（4 例）、侵襲性インフルエンザ菌感染症（3 例）、侵襲性肺炎球菌感染症（19 例）、水痘（入院例）（2 例）、梅毒（14 例）、播種性クリプトコックス症（4 例）、破傷風（1 例）、麻しん（1 例）の 14 疾病 77 例の報告があった。

《新型インフルエンザ等感染症》

報告はなかった。

2 定点把握対象感染症

五類感染症

山梨県および全国における平成 29 年の定点把握対象感染症の報告数と定点医療機関当たりの患者報告数¹（以下、「定点当たり報告数」と言う）を参考資料の 3 に示した。本県で患者報告数が 1,000 例を超えた疾病は、インフルエンザ（12,287 例）、感染性胃腸炎（6,088 例）、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎（2,897 例）、手足口病（2,503 例）、咽頭結膜熱（1,000 例）であった。定点当たりの報告数が全国に比べて高かった疾病は、A 群溶血性レンサ球菌感染症（山梨県 120.71、全国 116.35）、咽頭結膜熱（山梨県 41.67、全国 29.23）、流行性角結膜炎（山梨県 40.33、全国 38.47）、流行性耳下腺炎（山梨 27.92、全国 24.67）、性器ヘルペスウイルス感染症（山梨県 13.33、全国 9.42）、百日咳（山梨県 4.58、全国 0.53）の 6 疾病であった。

前年（平成 28 年）との定点当たり報告数の比較を参考資料の 4 に示した。定点当たり報告数が前年より増加した疾病は、手足口病（4.57 倍）、百日咳（4.05 倍）など 13 疾病であった。

疑似症

法第 14 条 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症である、摂氏 38 度以上の発熱及び呼吸器症状（明かな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）発熱及び発しん又は水疱（ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明かな場合を除く。）の報告はなかった。

1：定点医療機関当たりの患者報告数とは

山梨県が指定する医療機関（指定届出機関）から 1 週間ごとに報告される患者数を、定点医療機関数で割った値である。県内の指定届出機関の一覧は 参考資料の 1 に掲載している。

注意報レベル、警報レベルについて

警報・注意報のねらいは、感染症発生動向調査における定点把握感染症のうち、公衆衛生上その流行現象の早期把握が必要な疾病について、流行の原因究明や拡大阻止対策などを講ずるための資料として、関係者に向け、データに何らかの流行現象がみられることを、一定の科学的根拠に基づいて迅速に注意喚起することにある。

警報レベル 大きな流行が発生または継続しつつあると疑われることを指します。

注意報レベル 流行の発生前であれば今後 4 週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指す。

警報レベルは、保健所単位で集計した 1 週間の定点当たり報告数がある基準値（開始基準値）以上で開始し、別の基準値（終息基準値）未満で終息となる。注意報レベルは、1 週間の定点当たり報告数がある基準値以上の場合である。警報・注意報レベルの基準値は、これまでの感染症発生動向調査データから、以下のとおり定められている。

疾病	警報レベル		注意報レベル
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	—
感染性胃腸炎	20	12	—
水痘	7	4	4
手足口病	5	2	—
伝染性紅斑	2	1	—
百日咳	1	0.1	—
ヘルパンギーナ	6	2	—
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	—
流行性角結膜炎	8	4	—

基準値はすべて定点当たり報告数です。注意報の「-」は対象としないことを意味する。

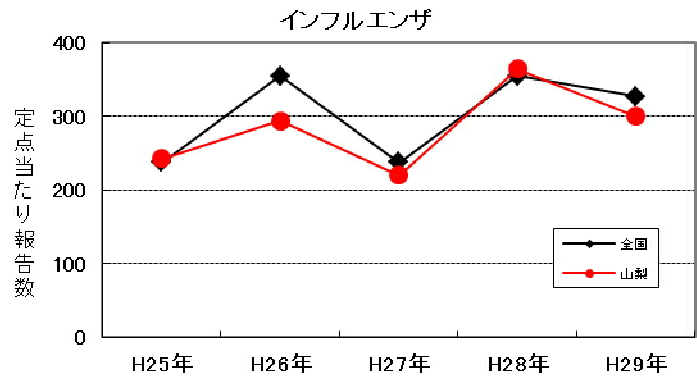
2 - 1 インフルエンザ定点から報告された感染症

県内に 41 あるインフルエンザ定点から、対象疾病であるインフルエンザについて週報として報告される。

インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

定点医療機関から 12,287 例(定点当たり報告数 299.68)の報告があり、前年 (14,572 例) よりやや減少した。

最近 5 年間の状況は全国とほぼ同様の推移であった。

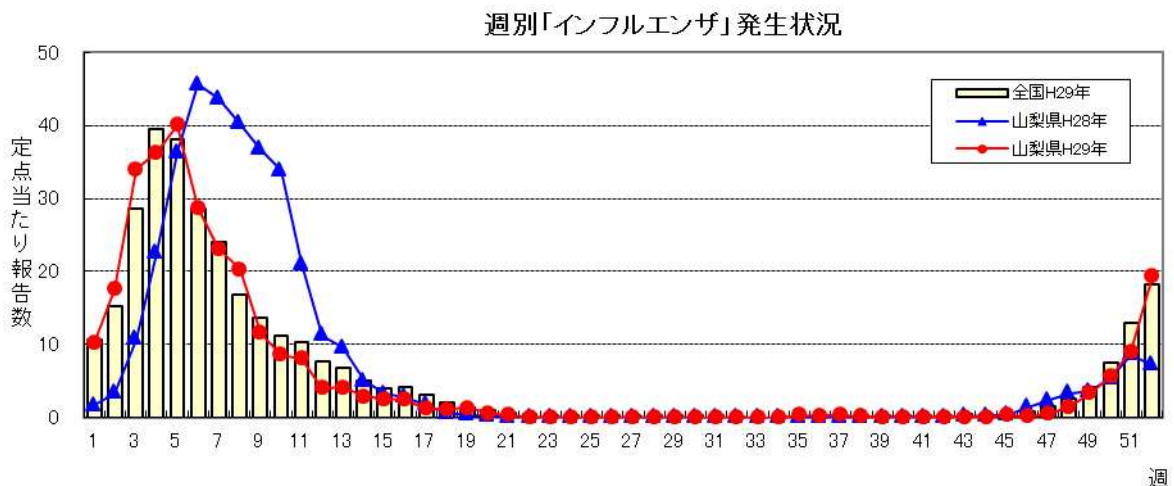


《週別発生状況》

2016/2017 シーズンは H28 年の第 35 週から患者報告が始まり、第 46 週 (1.34) に定点当たり報告数が流行開始の基準となる 1.0 を超えた。注意報レベル(10.0)を超えたのは H28 年第 51 週の中北保健所管内(12.14)、警報レベル(30.0)を超えたのは H29 年第 3 週の中北保健所管内(40.50)、中北保健所峡北支所管内(31.75)、峡東保健所管内(42.00)であった。その後は H29 年第 5 週 (40.12) をピークとして減少し、第 20 週 (0.54) に 1.0 以下となるまで流行は継続した。

2017/2018 シーズンは第 41 週から継続的に患者報告が始まり、第 48 週 (1.41) に流行開始の基準となる 1.0 を超え、第 51 週には富士東部保健所管内(14.70)で注意報レベルを超えた。

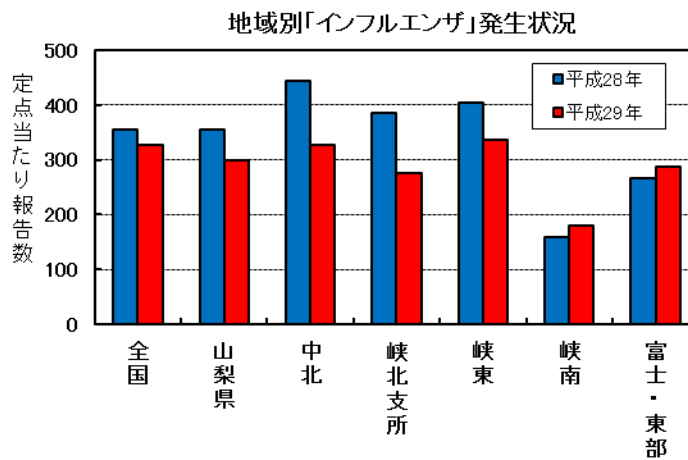
年間を通した発生状況は、全国とほぼ同様の推移であった。



《地域別発生状況》

定点当たりの報告数が最も多かったのは峡東保健所管内（337.00）、次いで中北保健所管内（327.71）であった。最も少なかったのは前年と同じ峡南保健所管内（180.33）であった。

峡南保健所管内、富士・東部保健所管内では前年よりも報告数が増加した。



2 - 2 小児科定点から報告された感染症

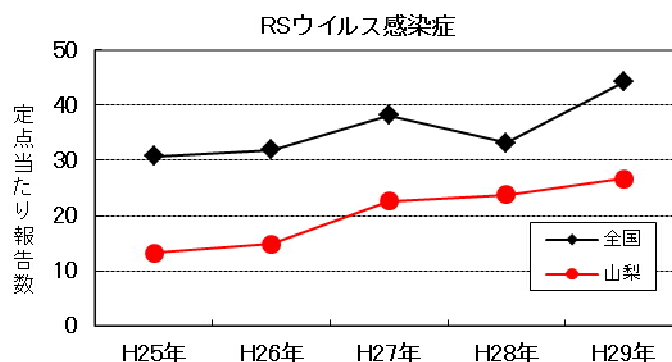
県内に24ある小児科定点から、対象疾病であるRSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発疹、百日咳、ヘルパンギーナ及び流行性耳下腺炎について週報として報告される。

総報告数は14,873例で、前年(14,353例)より増加した。前年と比較して報告数が増加した疾病は、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、百日咳、流行性耳下腺炎の6疾病であった。

RSウイルス感染症

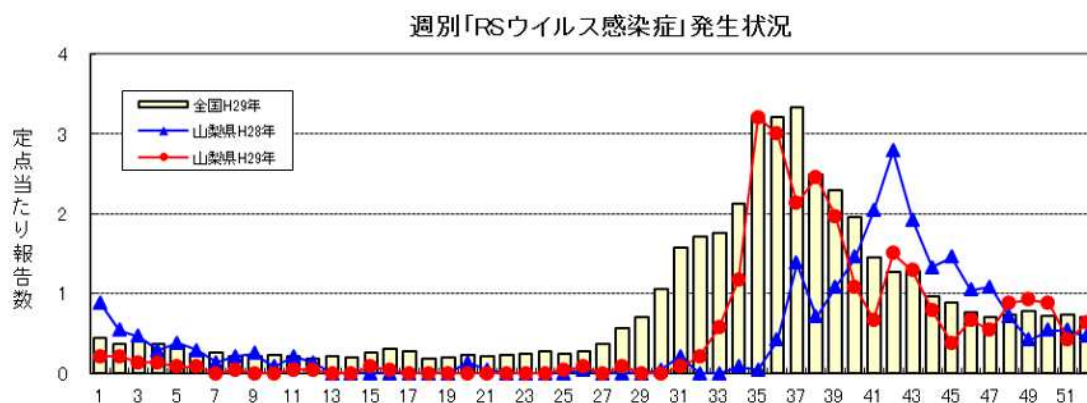
定点医療機関から641例(定点当たり報告数26.71)の報告があり、前年(571例)よりもやや増加した。

過去5年間の推移をみると、全国、本県ともに増加傾向である。



《週別発生状況》

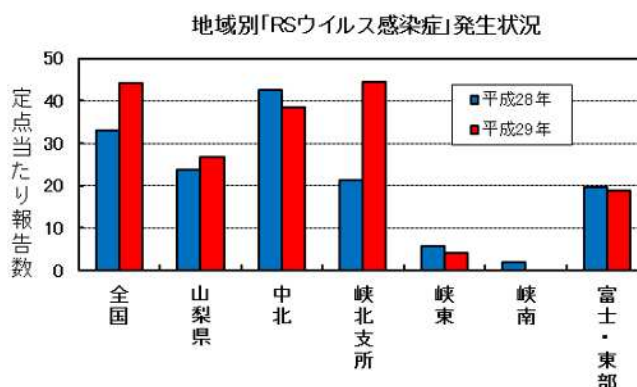
第34週に報告数が1.0を超え、第35週(3.21)をピークとする冬季の流行がみられた。全国では、第30週に1.0を超え、第37週(3.34)にピークを示した。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所峡北支所管内(44.40)であり、前年よりも大幅に増加したが、その他の保健所管内では前年よりも減少した。

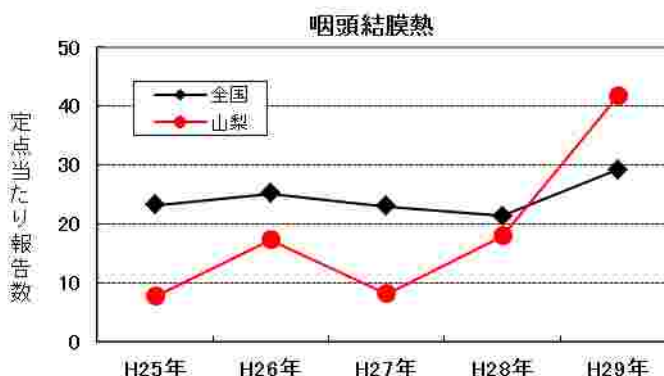
峡南保健所管内では報告がなく、地域により流行に偏りがみられた。



咽頭結膜熱

定点医療機関から 1,000 例（定点当たり報告数 41.67）の報告があり、前年（432 例）の約 2.3 倍と大幅に増加した。

全国では減少傾向であったが、前年の 1.4 倍とやや増加した。



《週別発生状況》

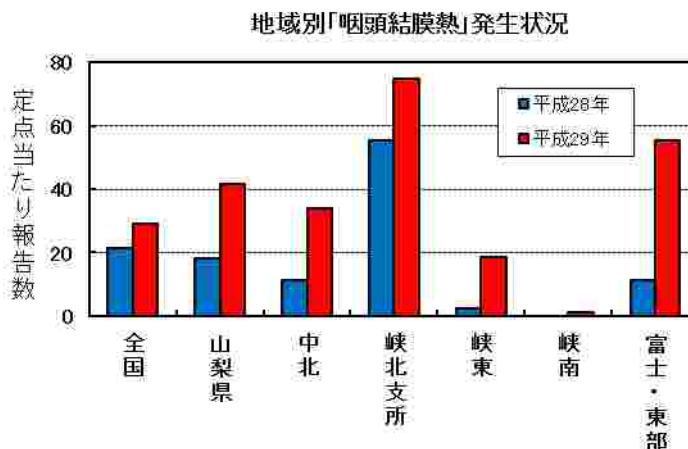
第 22 週(3.29)をピークとする夏季の流行がみられ、同時期の全国を大幅に上回った。第 22 週に中北保健所管内(3.13)、中北保健所峡北支所管内(5.80)、富士・東部保健所管内(4.80)で警報開始基準値(3.0)を超えて以降、中北保健所峡北支所管内では第 37 週まで警報レベルが継続した。



《地域別発生状況》

全ての保健所、支所管内で前年よりも報告数が増加した。

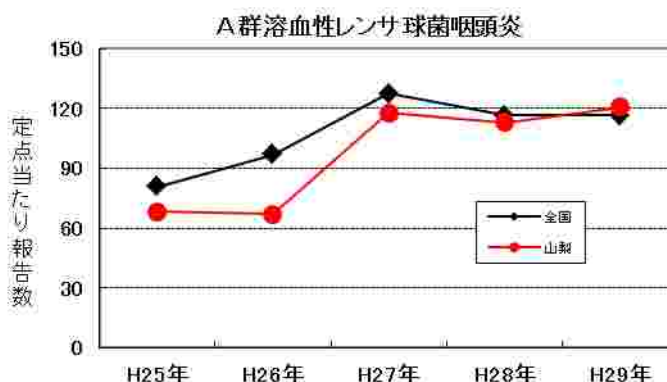
定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所峡北支所管内(74.60)で、全国(29.23)を大幅に上回った。これに対して峡南保健所管内(1.00)の報告数は少なく、地域により流行の偏りがみられた。



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点医療機関から2,897例(定点当たり報告数120.71)の報告があり、前年(2,712例)よりもやや増加した。

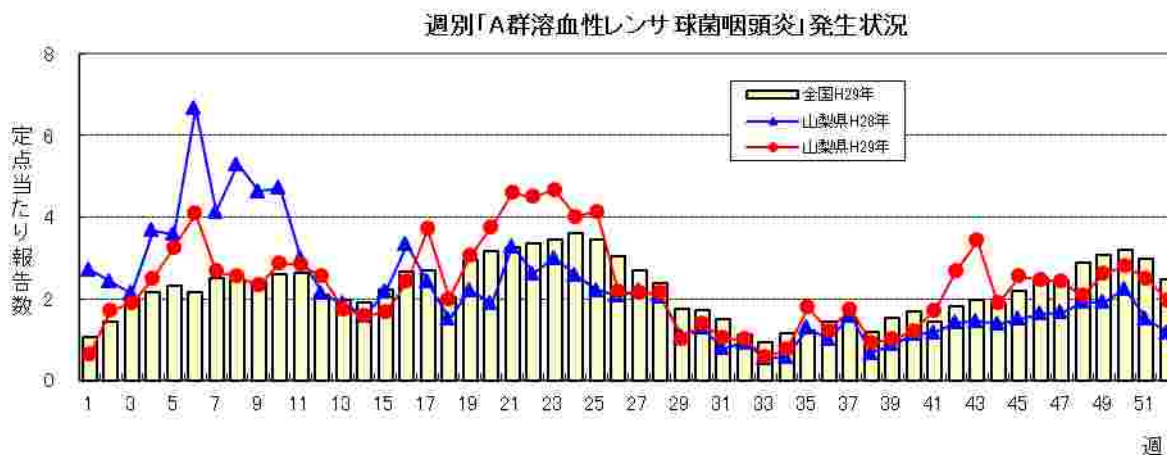
定点当たり報告数は、全国とほぼ同様に推移している。



《週別発生状況》

第6週(4.08)、第23週(4.67)、第43週(3.42)を頂点とする緩やかなピークが見られ、同時期の全国を上回った。中北保健所峡北支所管内では第4週から7週、21週から28週、42週、43週と断続的に警報レベルとなった。

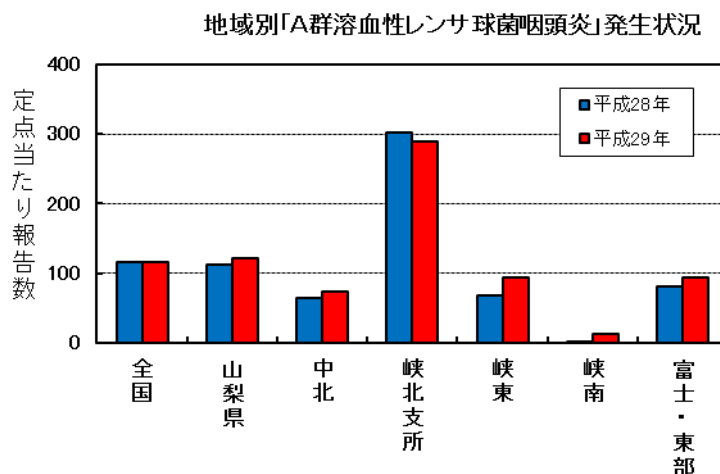
年間を通した発生状況は、全国とほぼ同様の推移であった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数の最も多かった中北保健所峡北支所管内(289.20)では前年よりやや減少したものの、全国(116.35)を大きく上回った。

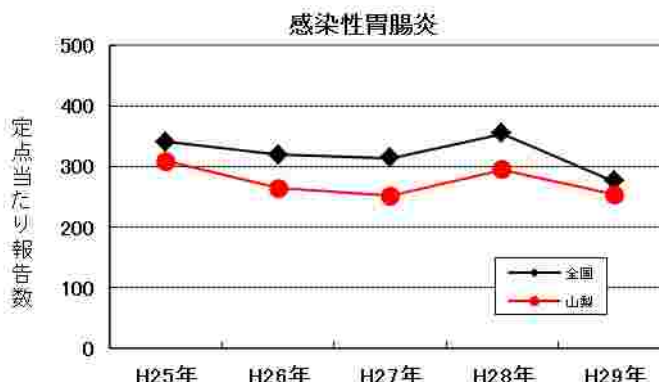
これに対してその他の保健所管内では全国を下回った。



感染性胃腸炎

定点医療機関から6,088例(定点当たり報告数253.67)の報告があり、前年(7,071例)より減少した。

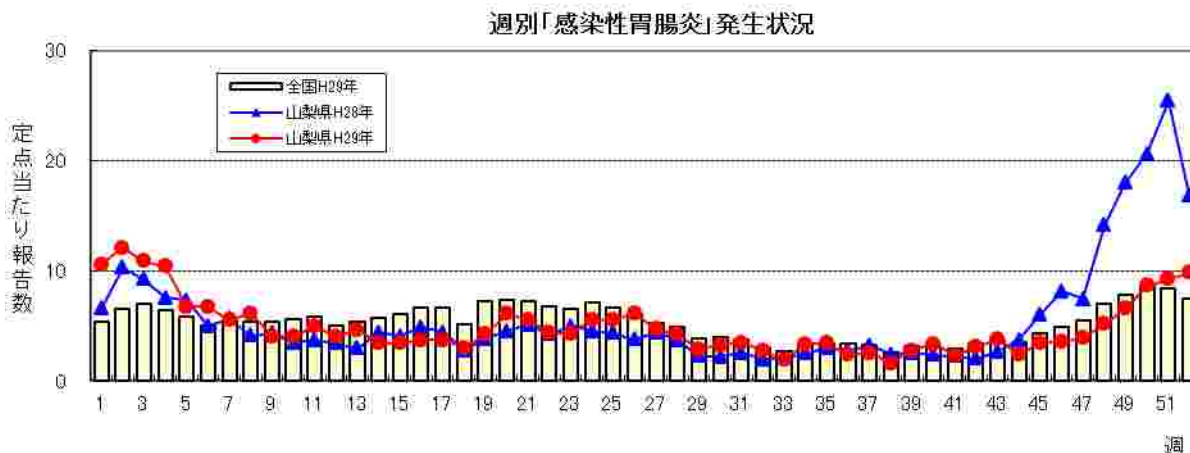
最近5年間は全国より少ない報告数で、同様に推移している。



《週別発生状況》

定点当たり報告数は第2週(12.08)、第52週(9.79)を緩やかなピークとする冬季の流行がみられた。中北保健所管内では前年からの警報レベルが第2週まで継続した。

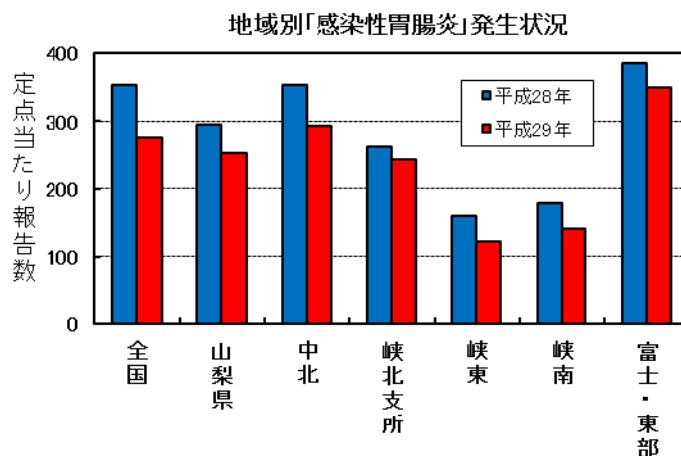
年間を通した発生状況は、全国とほぼ同様の推移であった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数は全ての保健所、支所管内で前年よりも減少した。

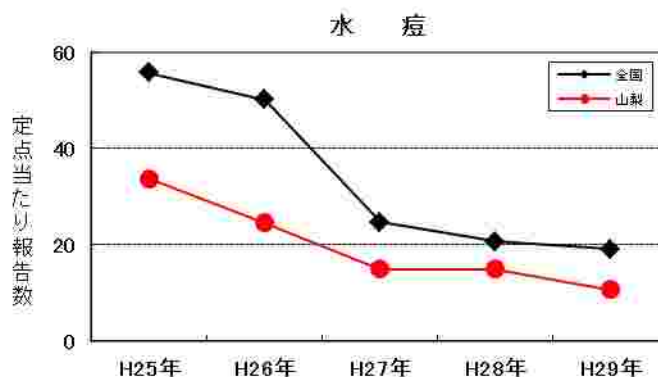
報告数の最も多かった富士・東部保健所管内(349.40)に対して、峡東保健所管内(122.00)の報告数は少なかった。



水痘

定点医療機関から 255 例(定点当たり報告数 10.63)の報告があり、前年(359 例)とよりも減少した。

最近 5 年間は、全国、本県ともに減少傾向である。



《週別発生状況》

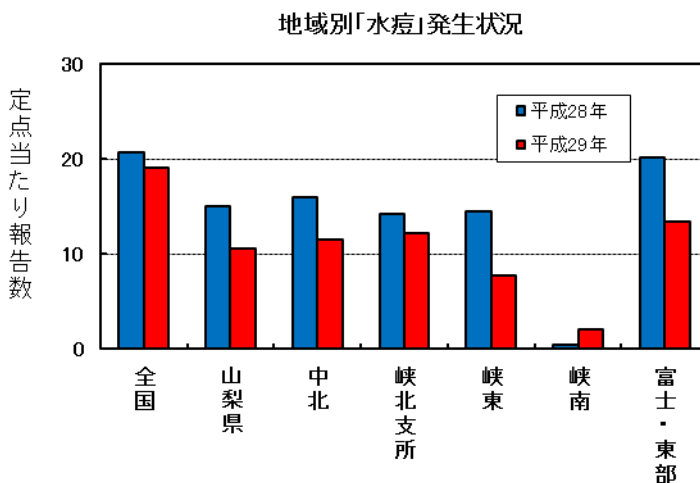
定点当たり報告数のピークは第 36 週(0.54)であったが、流行はみられなかった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは、富士・東部保健所管内(13.40)であった。

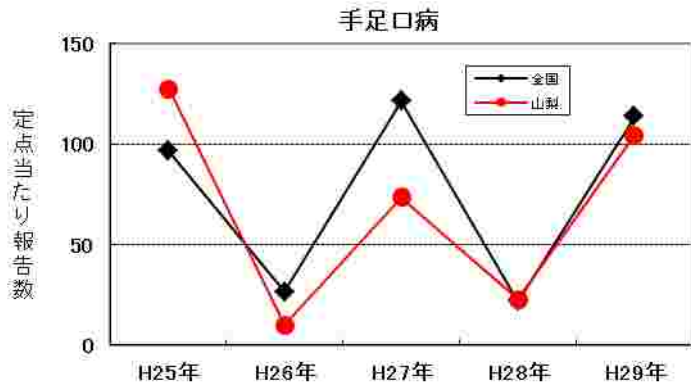
峡南保健所管内を除く、その他の保健所、支所管内では報告数は減少した。



手足口病

定点医療機関から2,503例(定点当たり報告数104.29)の報告があり、前年(548例)と比較して大幅に増加した。

全国でも大幅に増加しており、最近5年間は全国と同様に推移している。



《週別発生状況》

第30週(11.67)をピークとする夏季の大きな流行がみられた。特に第26週に峡東保健所管内で警報開始基準値(6.0)を超えて以降、43週までいずれかの保健所、支所管内で警報レベルが継続した。

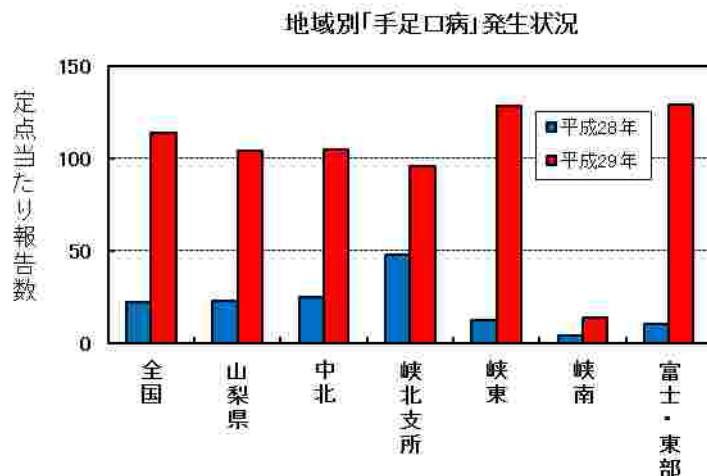
年間を通した発生状況は全国とほぼ同様であった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは、富士・東部保健所管内(129.20)であった。

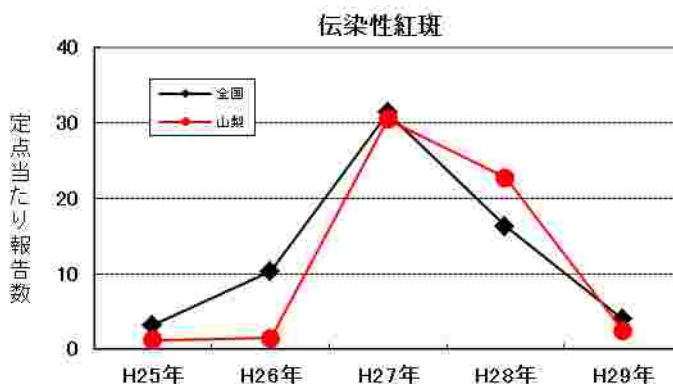
全ての保健所、支所管内で前年よりも大幅に報告数が増加した。



伝染性紅斑

定点医療機関から 57 例(定点
当たり報告数 2.38)の報告があ
り、前年 (545 例) の約 10% に
留まり大幅に減少した。

最近 5 年間は全国と同様に推
移している。



《週別発生状況》

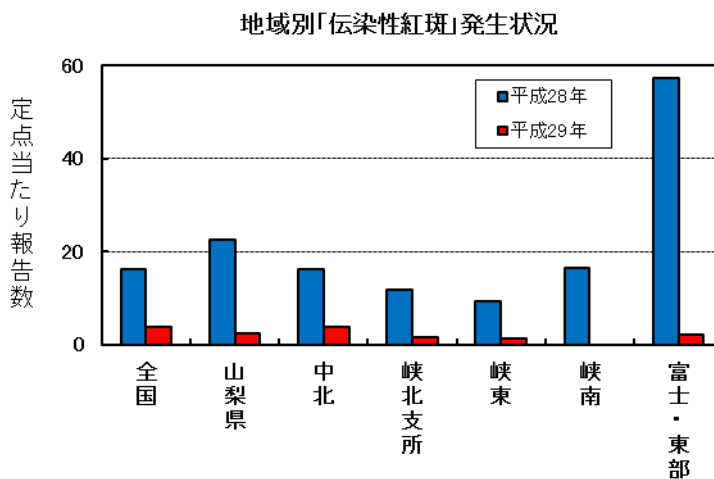
前年よりも年間を通して報告数は少なく、最も多かったのは第 25 週(0.33)であった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多
かったのは中北保健所管内
(4.00)であり、峡南保健所管内
の報告は無かった。

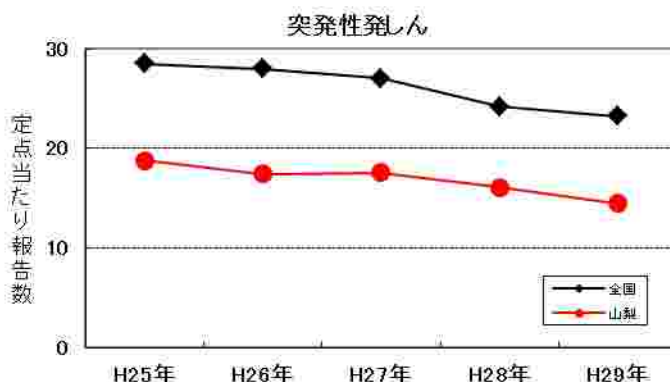
全ての保健所、支所管内で報
告数は大幅に減少した。



突発性発しん

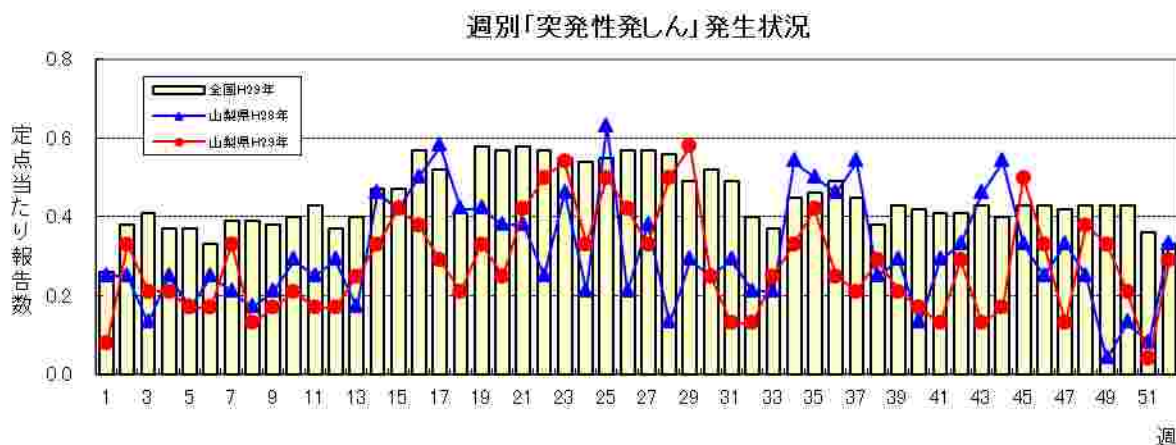
定点医療機関から 347 例（定点当たり報告数 14.46）の報告があり、前年（385 例）よりやや減少した。

最近 5 年間は全国、本県ともにやや減少傾向である。



《週別発生状況》

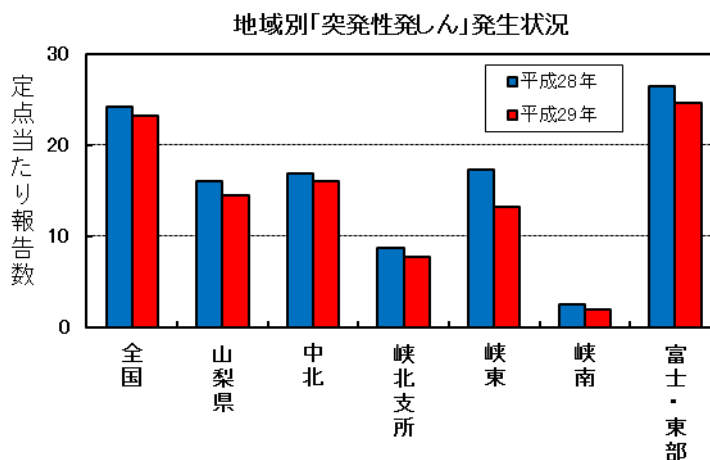
年間を通して報告があったが、大きな流行のピークはみられなかった。



《地域別発生状況》

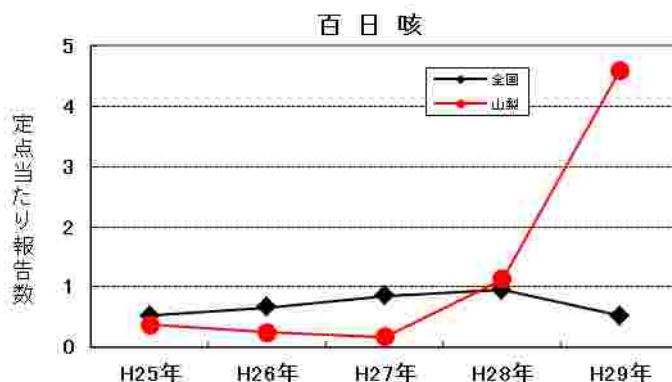
定点当たり報告数が最も多かったのは富士・東部保健所管内（24.60）であり、全国（23.22）を上回った。

全ての保健所、支所管内で前年よりも報告数が減少した。



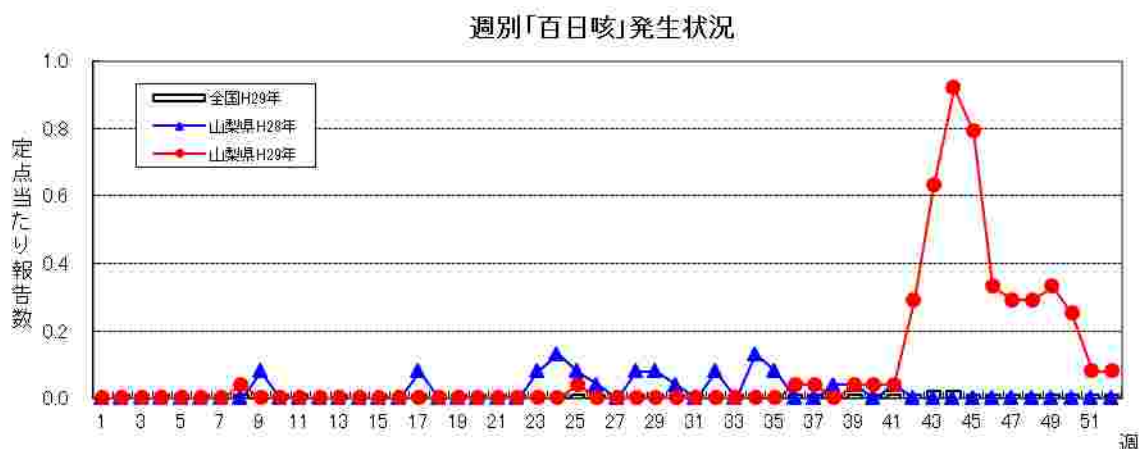
百日咳

定点医療機関から110例(定点当たり報告数4.58)の報告があり、前年(27例)の約4倍と大幅に増加した。全国では前年よりも減少している。



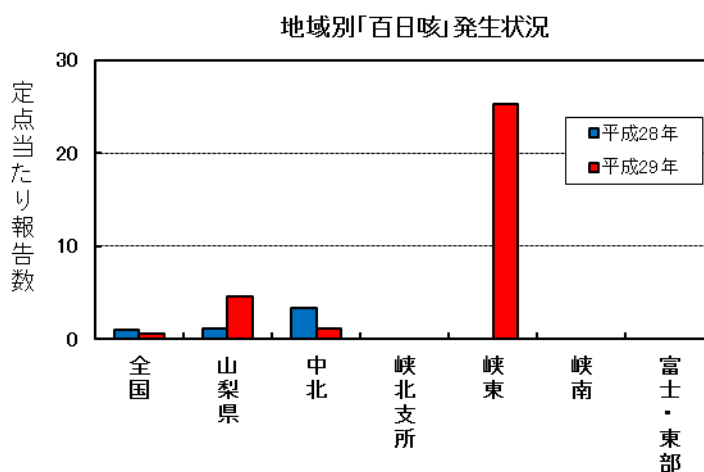
《週別発生状況》

定点あたり報告数は第42週(0.29)から大幅に増加し、第44週(0.92)をピークに減少した。峡東保健所管内では第42週(1.50)に警報開始基準値(1.0)を超えて以降、52週(0.52)まで、警報レベルが継続した。



《地域別発生状況》

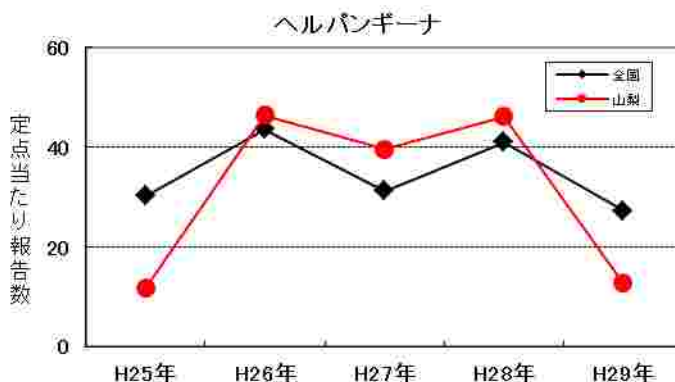
報告のあった110例のうち約92%(101例)は峡東保健所管内(25.25)であり、流行地域に偏りがみられた。



ヘルパンギーナ

定点医療機関から 305 例（定点当たり報告数 12.71）の報告があった。前年（1,107 例）よりも大幅に減少し、全国よりも少なかった。

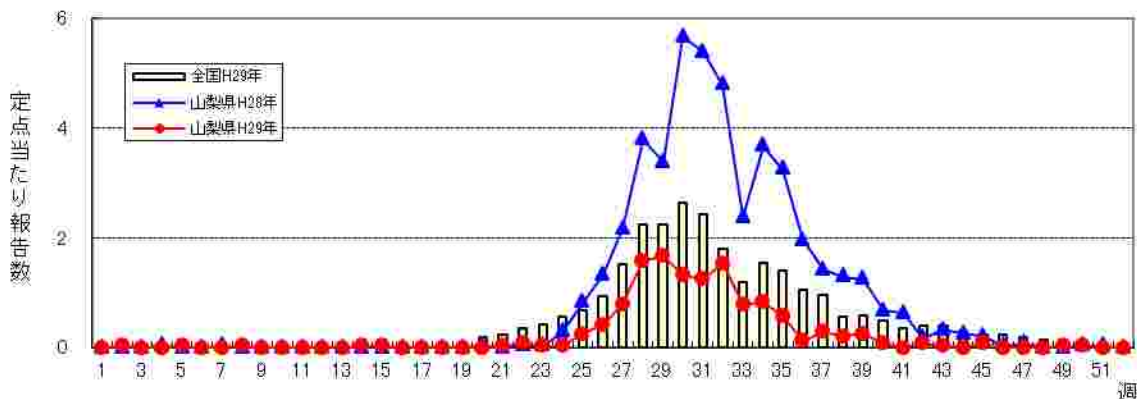
最近 5 年間は全国と同様に推移している。



《週別発生状況》

第 29 週(1.67)をピークとする夏季に報告数が多かった。発生状況は全国とほぼ同様であった。

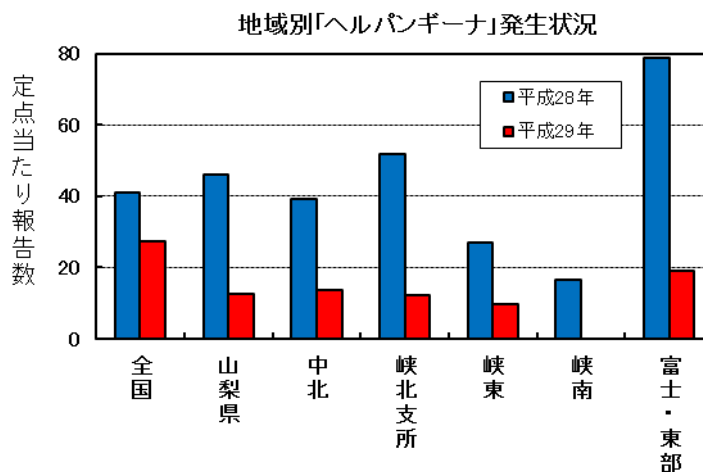
週別「ヘルパンギーナ」発生状況



《地域別発生状況》

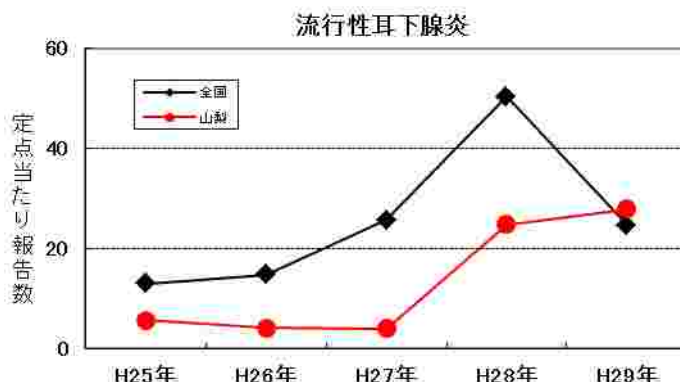
定点当たり報告数は、全ての保健所、支所管内で減少し、全国（27.26）を下回った。

報告数が最も多かったのは富士・東部保健所管内（19.00）であり、峡南保健所管内では報告が無かった。



流行性耳下腺炎

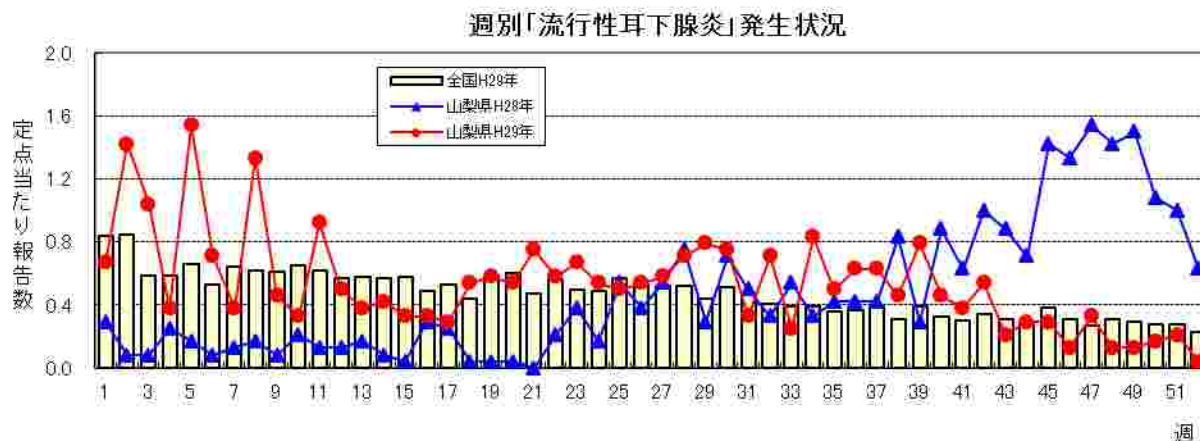
定点医療機関から670例(定点当たり報告数27.9)の報告があった。前年(596例)よりもやや増加したが、全国では大幅に減少している。



《週別発生状況》

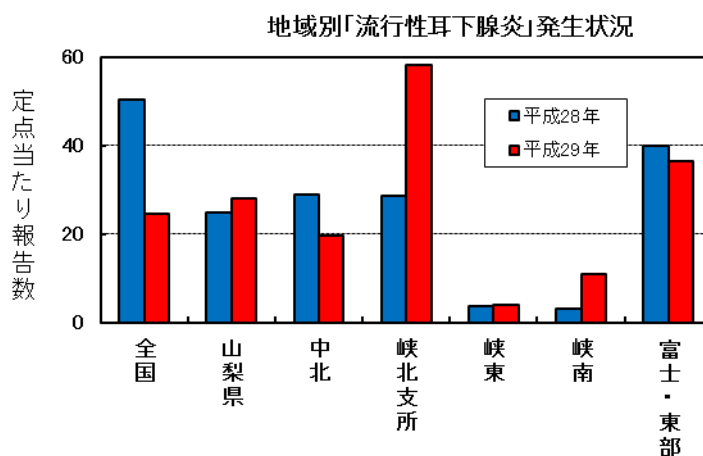
第2週、5週、8週には報告数が1.0を超えたが、県全体の発生状況は全国とほぼ同様であった。

富士・東部保健所管内では第2週(3.20)、5週(5.00)、8週(4.60)、11週(3.00)と断続的に報告数が注意報レベル基準値(3.0)以上となった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所峡北支所管内(58.2)であり、全国(24.7)を大幅に上回った。最も少なかったのは峡東保健所管内(4.0)であり、流行地域に偏りがみられた。



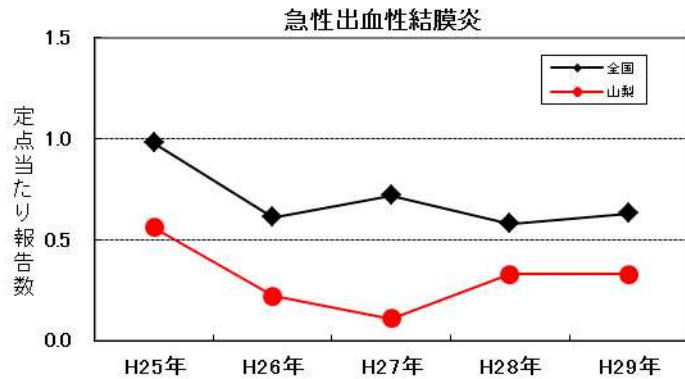
2 - 3 眼科定点から報告された感染症

県内に9ある眼科定点から、対象疾病である急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎について週報として報告される。平成29年に報告された総数は366例で、急性出血性結膜炎3例、流行性角結膜炎363例であった。

急性出血性結膜炎

定点医療機関から3例(定点当たり報告数0.33)の報告があり、前年と同数であった。

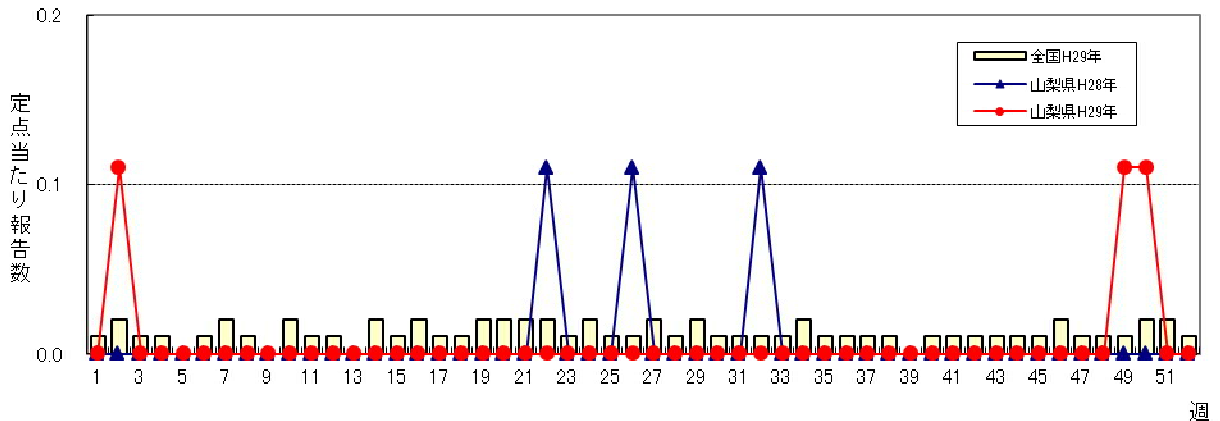
最近5年間は全国よりも少なく推移している。



《週別発生状況》

第2週、第49週、第50週に各1例の報告があった。

週別「急性出血性結膜炎」発生状況

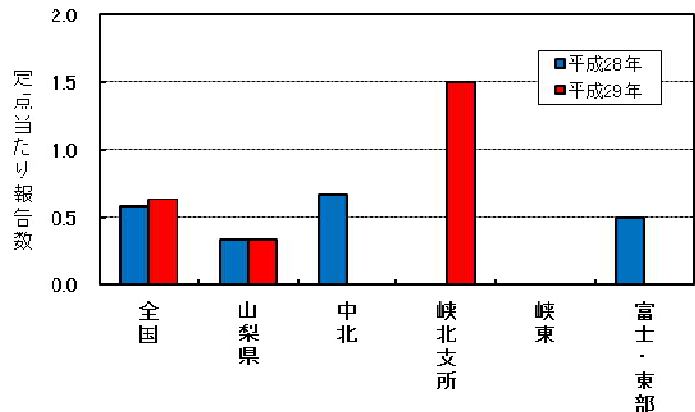


《地域別発生状況》

報告があったのは中北保健所峡北支所管内(1.50)だけであった。

(峡南保健所管内には定点の指定なし)

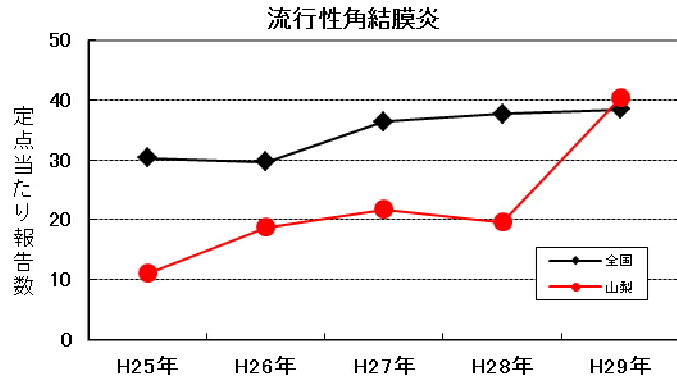
地域別「急性出血性結膜炎」発生状況



流行性角結膜炎

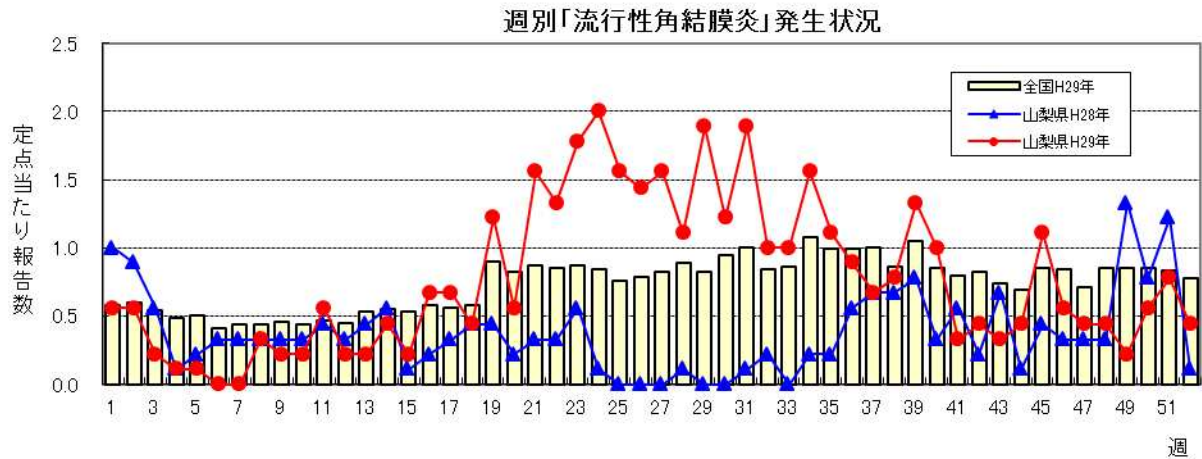
定点医療機関から 363 例（定点当たり報告数 40.33）の報告があり、前年（177 例）の約 2 倍以上増加した。

最近 4 年間は全国よりも少なく推移していたが、本年は全国をわずかに上回った。



《週別発生状況》

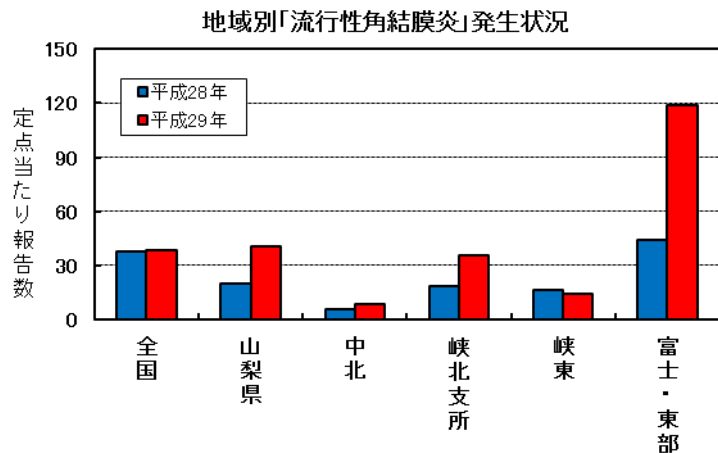
第 21 週から第 35 週は連続して定点当たり報告数が 1.0 を超え、最も多かったのは第 24 週（2.00）であった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは富士・東部保健所管内（119.00）で、前年（44.50）を大きく上回った。

富士・東部保健所管内で全体の約 6 割以上を占め、流行地域に偏りがみられた。



（ 峡南保健所管内には定点の指定なし）

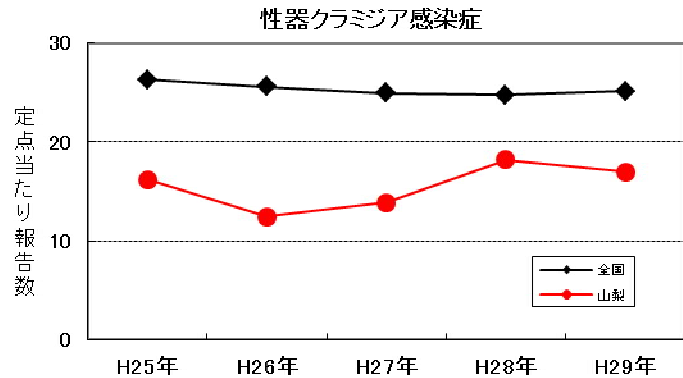
2 - 4 性感染症定点から報告された感染症

県内に 9 ある性感染症定点から、対象疾病である性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ及び淋菌感染症について月報として報告される。平成 29 年に報告された総数は 343 例で、前年（293 例）よりも増加した。

性器クラミジア感染症

定点医療機関から 153 例（定点当たり報告数 17.00）の報告があり、前年（164 例）よりやや減少した。

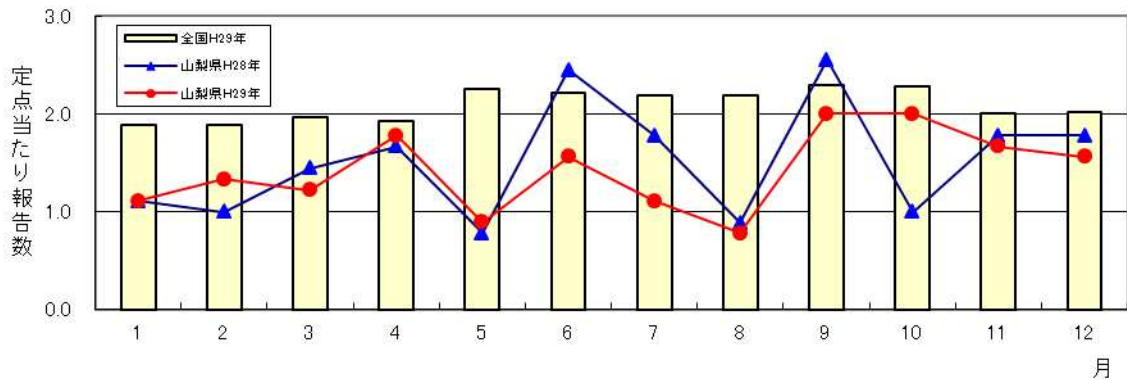
最近 5 年間は全国よりも少ない報告数で推移している



《月別報告数》

各定点から毎月報告があり、全国とほぼ同様に推移した。

月別「性器クラミジア感染症」発生状況



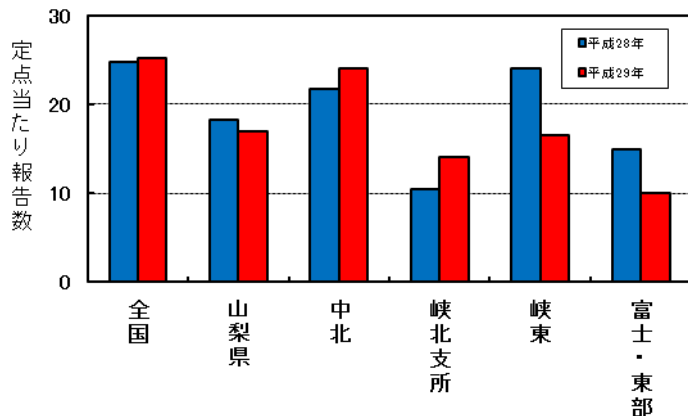
《域別発生状況》

全ての保健所、支所管内で定点当たり報告数は全国を下回った。

最も多かったのは中北保健所管内(24.00)であった。

(峡南保健所管内には定点の指定なし)

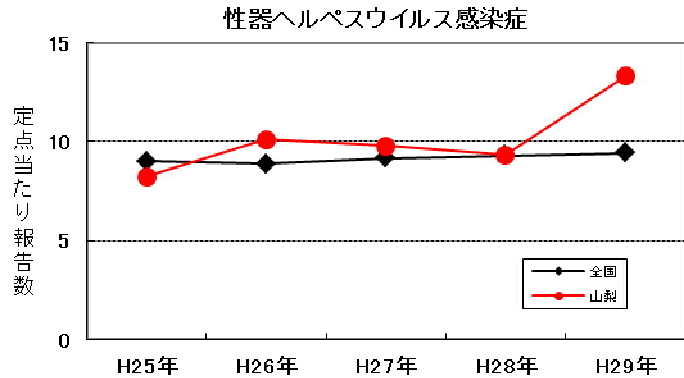
地域別「性器クラミジア感染症」発生状況



性器ヘルペスウイルス感染症

定点医療機関から 120 例（定点当たり報告数 13.33）の報告があり、前年（84 例）より増加した。

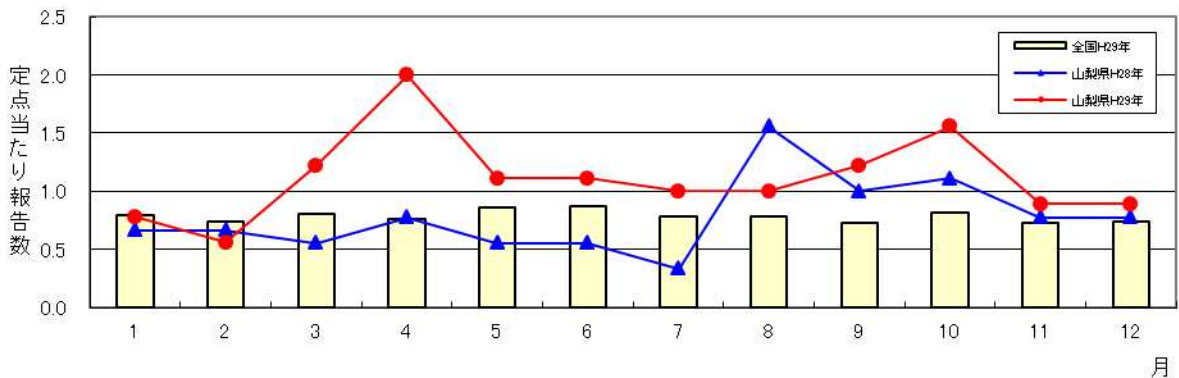
全国では最近 5 年間はほぼ横ばいに推移している。



《月別発生状況》

各定点から毎月報告があり、3月から12月の報告数は各月の全国を上回った。

月別「性器ヘルペスウイルス感染症」発生状況



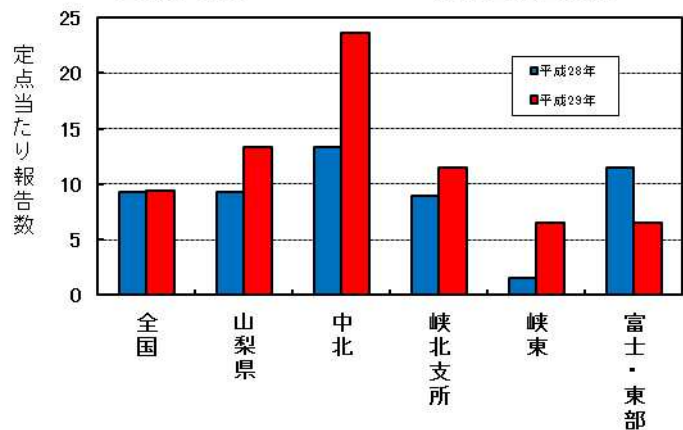
《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内(23.67)であり、報告数の約 6 割を占め、全国(9.42)を大きく上回った。

峡東保健所管内(6.50)、富士・東部保健所管内(6.50)は全国を下回った。

(峡南保健所管内には定点の指定なし)

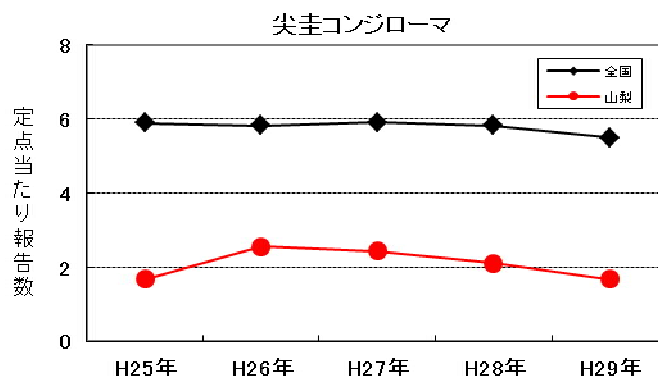
地域別「性器ヘルペスウイルス感染症」発生状況



尖圭コンジローマ

定点医療機関から15例(定点当たり報告数1.67)の報告があり、前年(19例)よりもやや減少した。

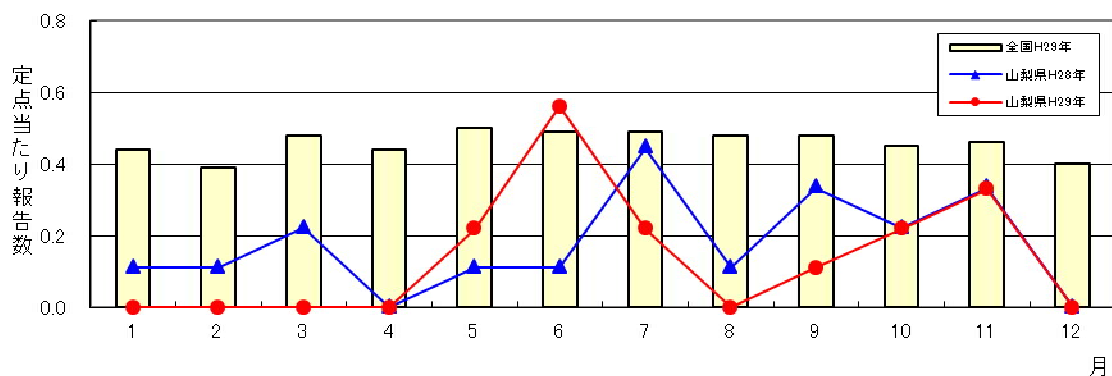
最近5年間の状況はほぼ横ばいで、全国よりも少なく推移している。



《月別発生状況》

5月から7月、9月から11月に患者報告があった。6月(0.56)は同時期の全国(0.49)を上回った。

月別「尖圭コンジローマ」発生状況

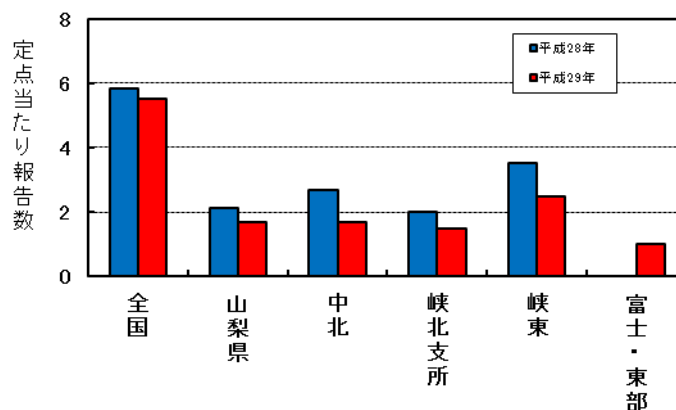


《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは峡東保健所管内(2.50)であった。

前年に報告が無かった富士・東部保健所管内では報告数が増加したが、その他の保健所、支所管内では減少した。

地域別「尖圭コンジローマ」発生状況

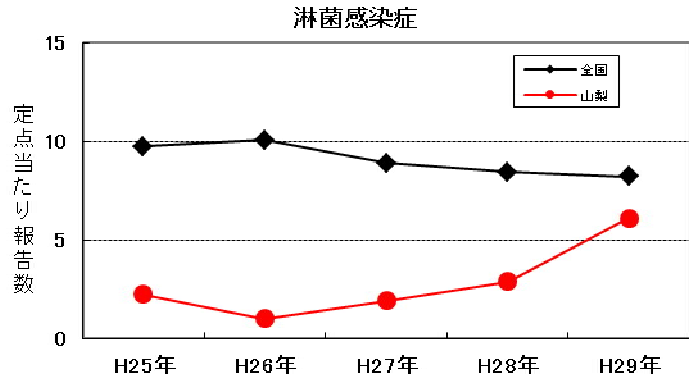


(峡南保健所管内には定点の指定なし)

淋菌感染症

定点医療機関から 55 例（定点当たり報告数 6.11）の報告があり、前年（26 例）よりも増加した。

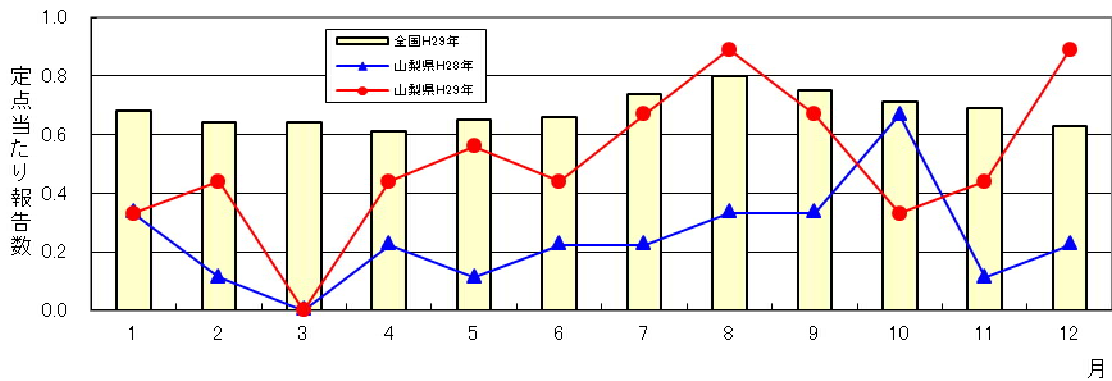
全国よりも少なく推移しているものの、全国では 3 年続けて減少傾向であるが、本県では増加傾向である。



《月別発生状況》

3 月を除き、年間を通して患者の報告があった。報告数が多かったのは 8 月（0.89）、12 月（0.89）であり、同時期の全国よりも多かった。

月別「淋菌感染症」発生状況

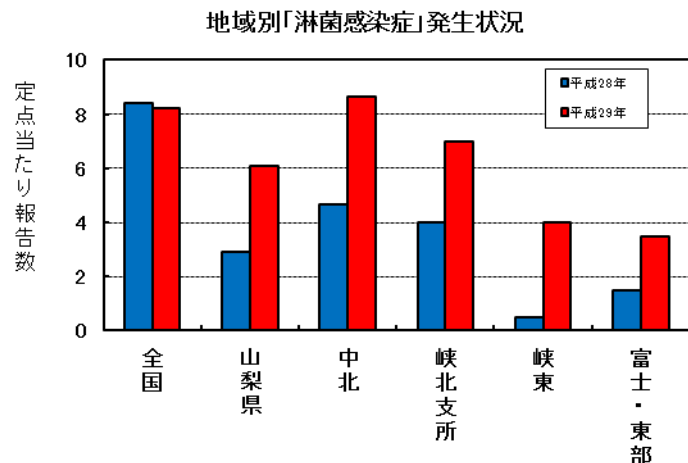


《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所管内（8.67）であり、全国（8.21）を上回った。

全ての保健所、支所管内で前年よりも報告数が増加した。

（ 峡南保健所管内には定点の指定なし）



2 - 5 基幹定点から報告された感染症

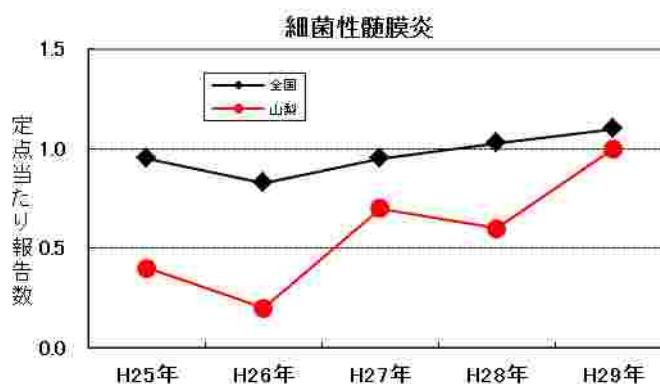
県内に 10 ある基幹定点から、対象疾病である細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因とした場合を除く）、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎（オウム病は除く）及び感染性胃腸炎（ロタウイルス）は週報として、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症は月報として報告される。

平成 29 年に基幹定点から報告された総数は 401 例（定点当たり報告数 40.1）で、報告数が多かったのは、マイコプラズマ肺炎 158 例、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 152 例であった。

細菌性髄膜炎

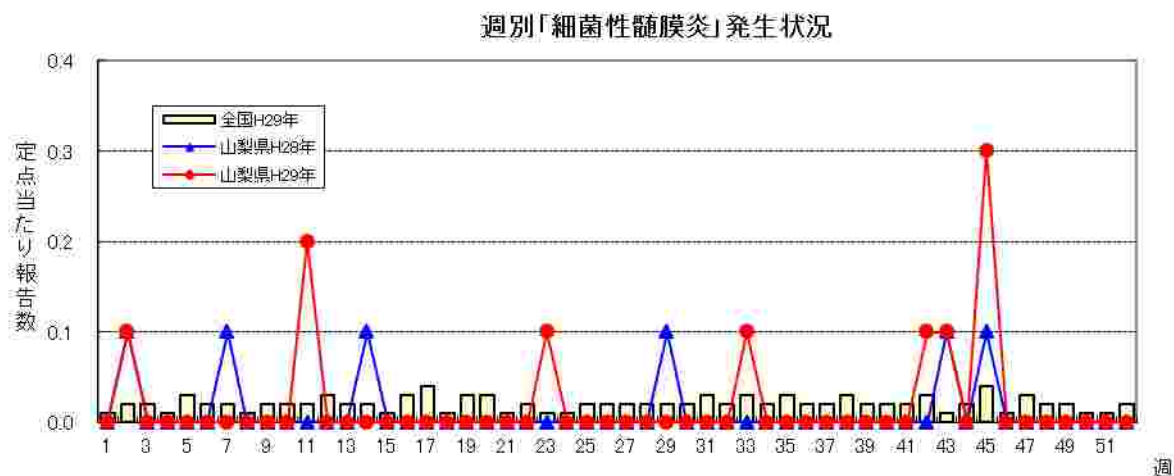
定点医療機関から10例（定点当たり報告数 1.00）の報告があり、前年（6例）より4例増加した。

最近4年間は全国でも増加傾向である。



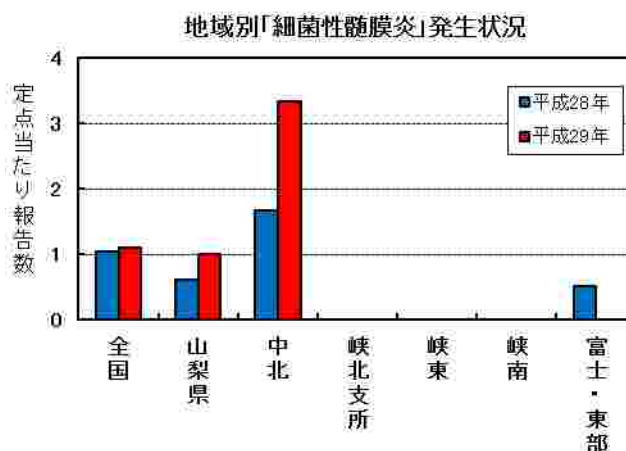
《週別発生状況》

第2週、23週、33週、42週、43週には各1例、第11週には2例、第45週には3例の報告があった。



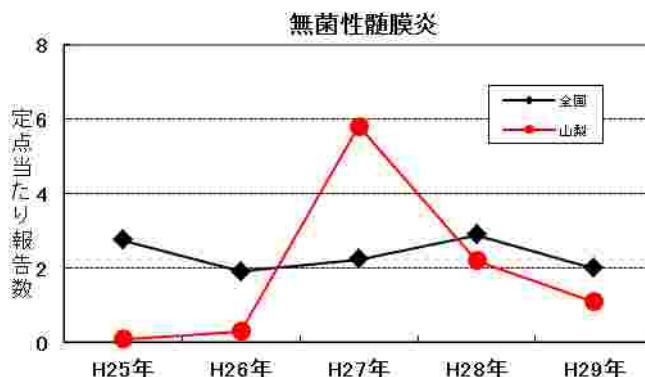
《地域別発生状況》

報告があったのは、中北保健所管内(3.33)のみであり、前年(1.67)の約2倍に増加した。



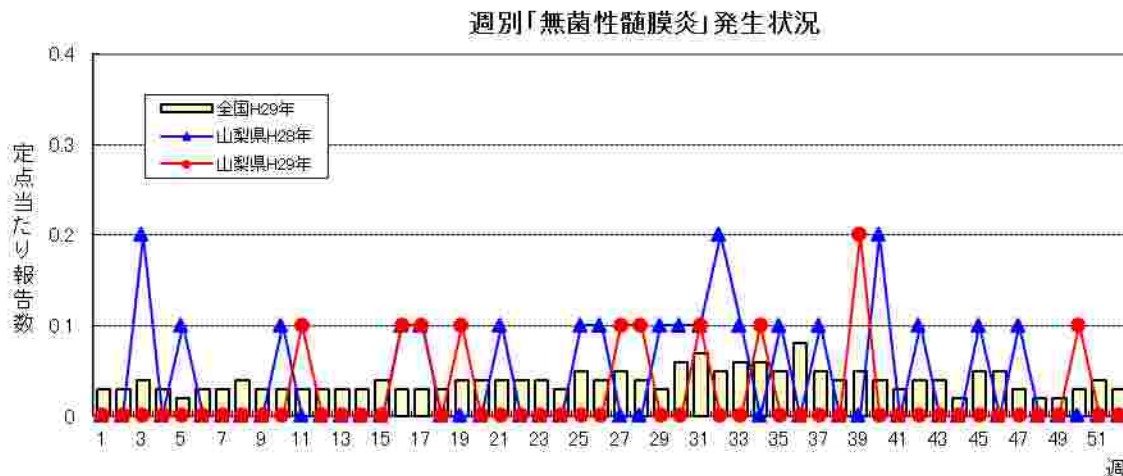
無菌性髄膜炎

定点医療機関から 11 例（定点当たり報告数 1.10）の報告があり、前年（22 例）の半数に減少した。全国でも前年より減少している。



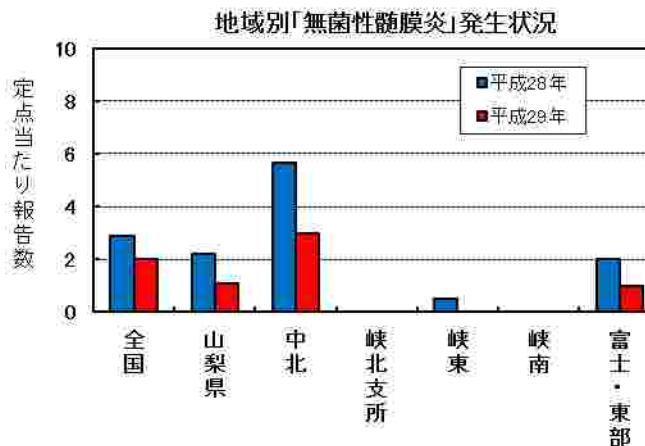
《週別発生状況》

年間を通して報告があったが、大きいピークはみられなかった。



《地域別発生状況》

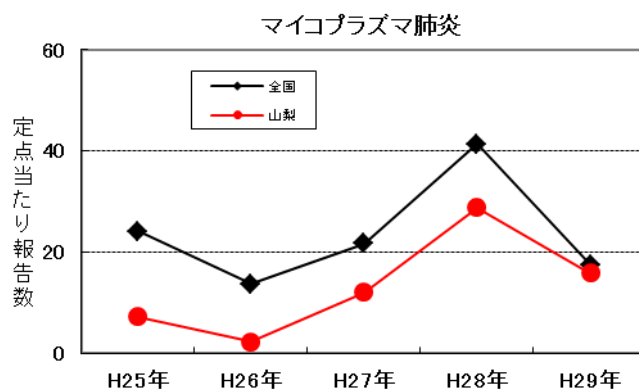
報告があったのは中北保健所管内(3.00)と富士・東部保健所管内(1.00)であった。



マイコプラズマ肺炎

定点医療機関から 158 例（定点当たり報告数 15.80）の報告があり、前年（288 例）よりも減少した。

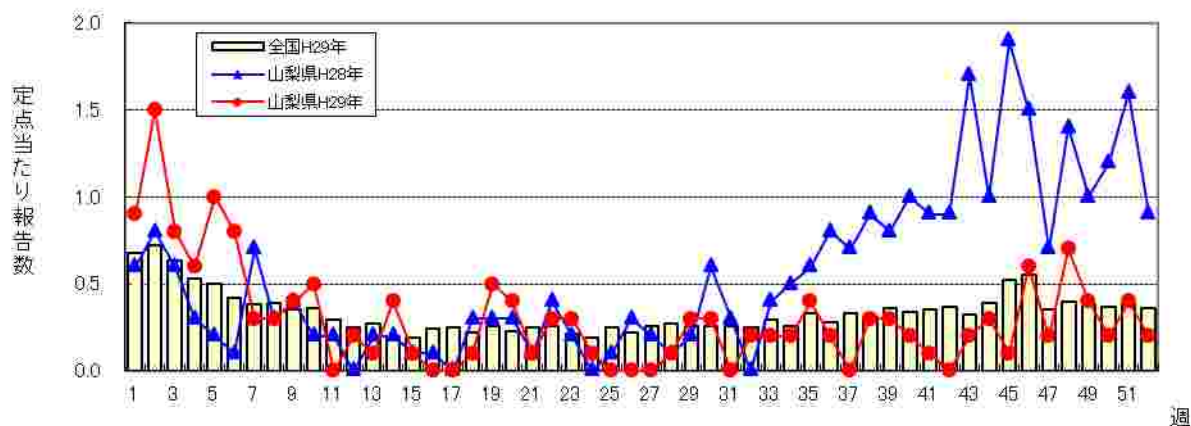
最近 5 年間は全国と同様に推移している。



《週別発生状況》

年間を通して報告があったものの、第2週(1.50)、第5週(1.00)の冬季に報告数が多かった。

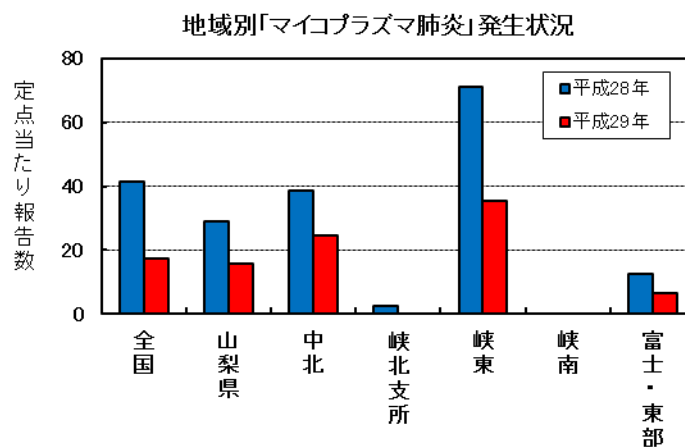
週別「マイコプラズマ肺炎」発生状況



《地域別発生状況》

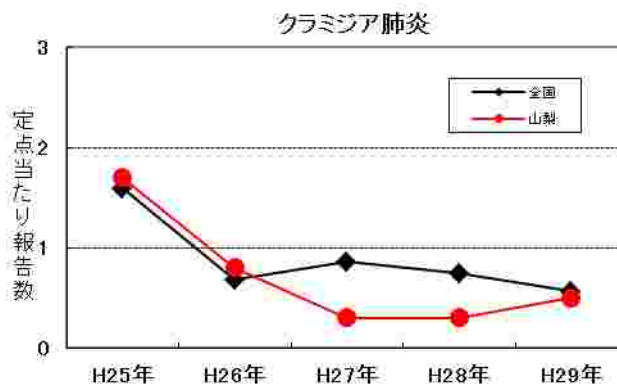
定点当たり報告数は峡東保健所管内(35.50)が最も多かったが、全ての保健所、支所管内で前年よりも減少した。

中北保健所峡北支所管内、峡南保健所管内では報告が無かった。



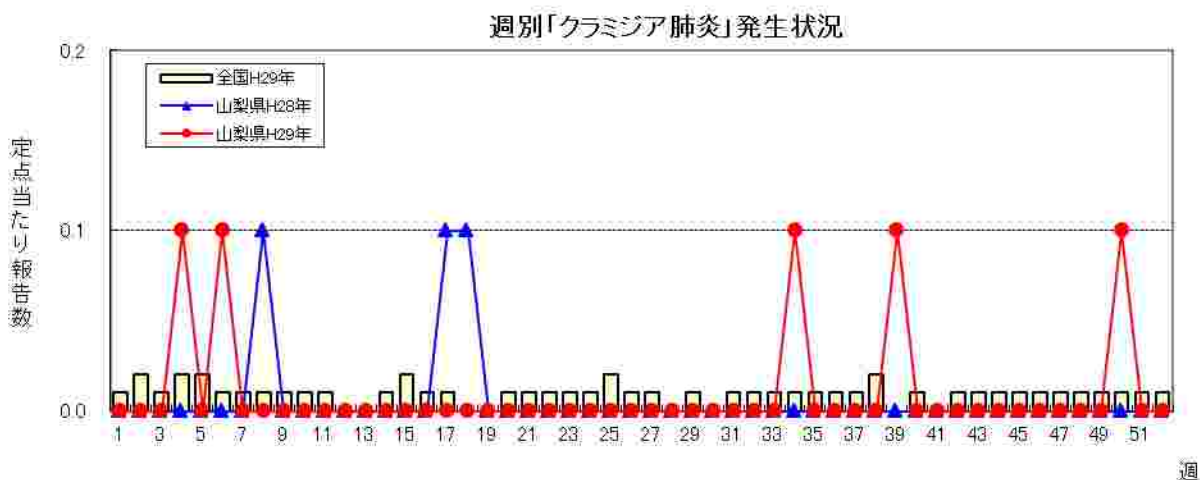
クラミジア肺炎（オウム病を除く）

定点医療機関から5例（定点当たり報告数0.50）の報告があり、前年よりも2例増加した。



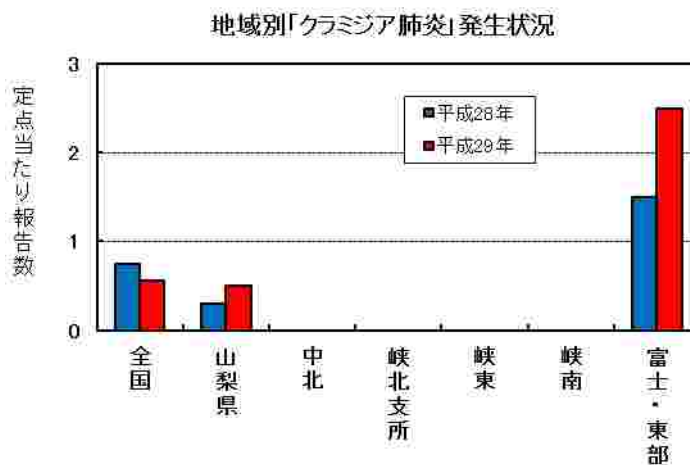
《週別発生状況》

第4週、6週、34週、39週、50週に各1例の報告があった。



《地域別発生状況》

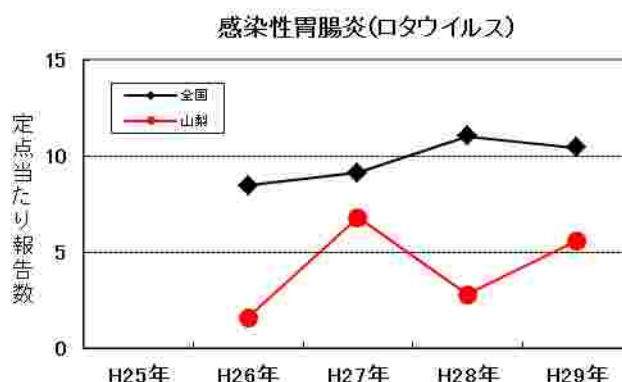
報告例は富士・東部保健所管内のみであった。



感染性胃腸炎（ロタウイルス）

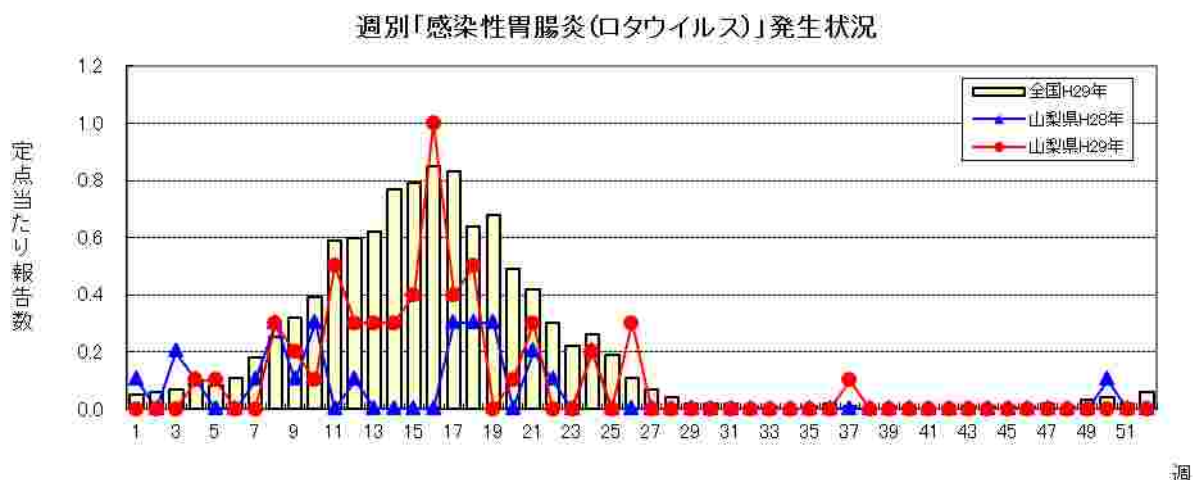
定点医療機関から56例（定点当たり報告数5.60）の報告があり、前年（28例）の2倍に増加した。

本疾患は感染性胃腸炎のうち、病原体がロタウイルスであるものについて、平成25年10月14日より追加指定された疾患である。



《週別発生状況》

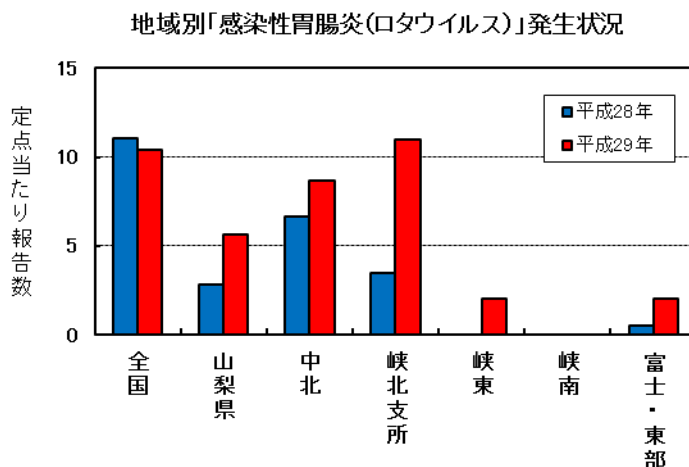
報告数は第16週(1.00)をピークに第4週から26週に多く、全国とほぼ同様の状況であった。



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所峡北支所管内(11.00)であった。

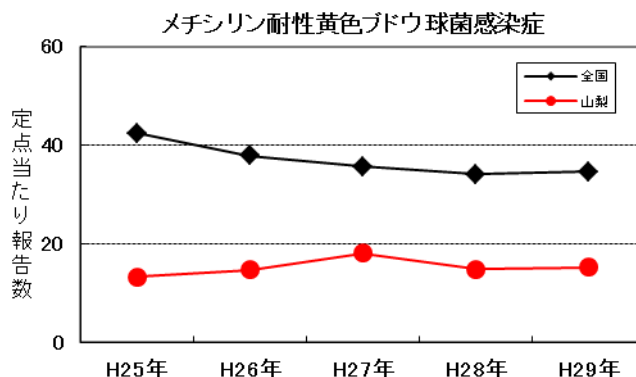
峡南保健所管内は報告が無かったが、その他の保健所、支所管内では前年よりも報告数が増加した。



メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

定点医療機関から 152 例(定点当たり報告数 15.20) の報告があり、前年(148 例) よりもわずかに増加した。

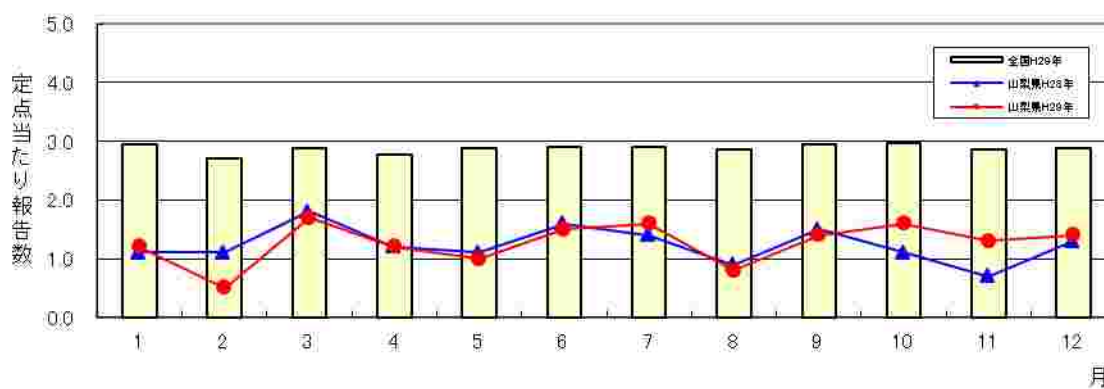
全国、本県ともに、ほぼ横ばいに推移している。



《月別発生状況》

年間を通して報告があったが、全国よりも少ない報告数であった。

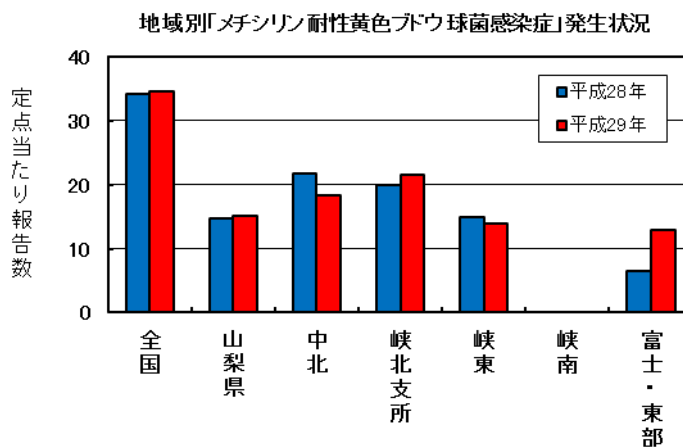
月別「メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症」発生状況



《地域別発生状況》

定点当たり報告数が最も多かったのは中北保健所峡北支所管内(21.5) であった。

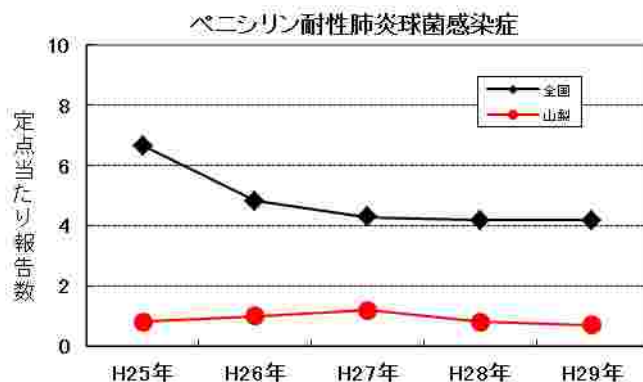
峡南保健所管内を除く保健所、支所管内から報告があり、前年とほぼ同様の傾向であった。



ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

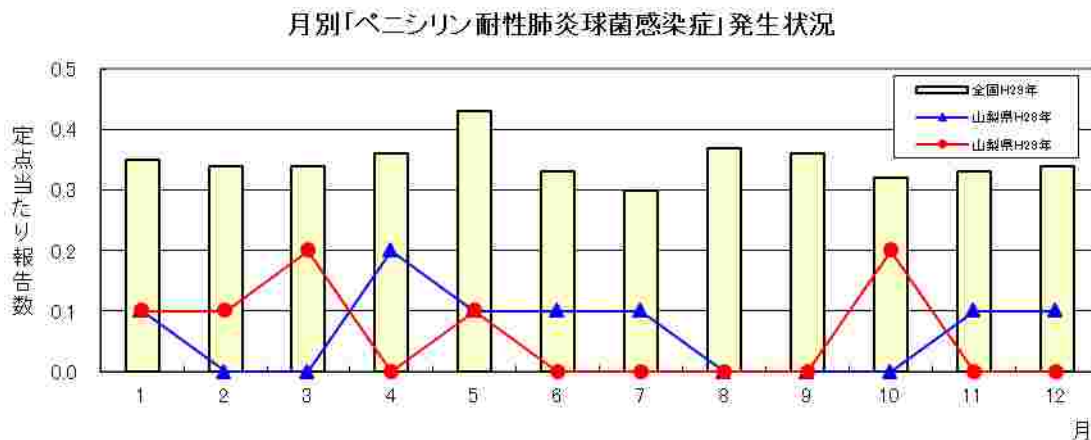
定点医療機関から7例(定点当たり報告数0.70)の報告があり、前年(8例)より1例減少した。

全国、本県ともに、ほぼ横ばいの推移である。



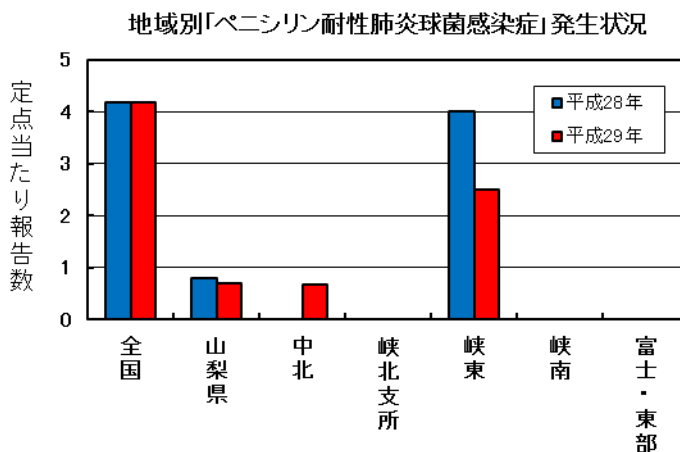
《月別発生状況》

1月、2月、5月に各1例、3月、10月に各2例の報告があった。



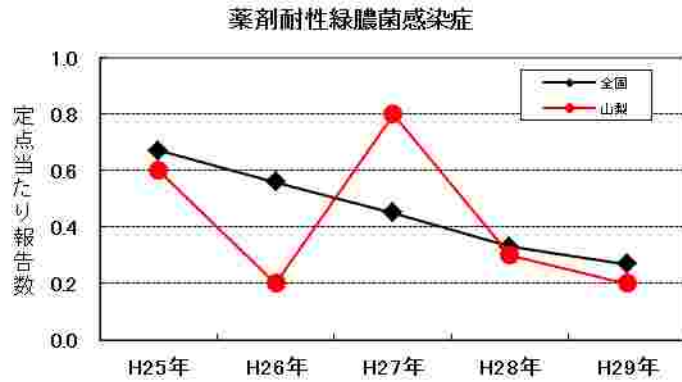
《地域別発生状況》

中北保健所管内(0.67)、峡東保健所管内(2.50)から報告があった。



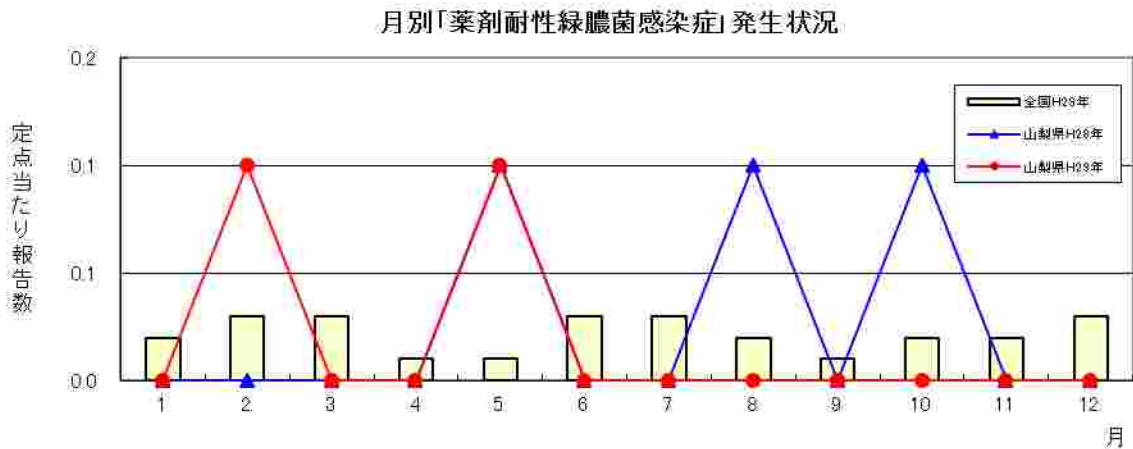
薬剤耐性緑膿菌感染症

定点医療機関から2例（定点当たり報告数 0.20）の報告があり、前年（3例）より1例減少した。全国でも減少傾向である。



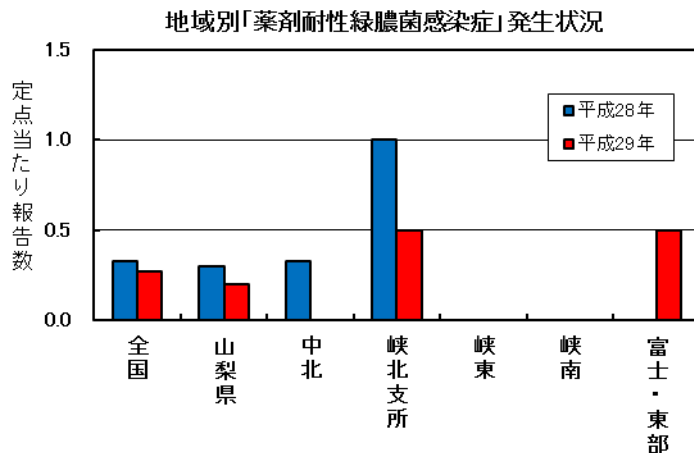
《月別発生状況》

2月、5月に各1例の報告があった。



《地域別発生状況》

中北保健所 峡北支所管内 (0.50)、富士・東部保健所管内 (0.50) から報告があった。



病原微生物検出状況

1 ウイルス検出状況

県内に19ある病原体定点(医療機関)及び集団発生事例において採取された644検体についてPCR法と細胞分離法により検査を実施し、349件(54.2%)のウイルスを検出した。

最も多く検出されたのはインフルエンザウイルス177件で全体の50.7%を占め、次いでノロウイルス111件(31.8%)であった。他にRSウイルス16件(4.6%)、アデノウイルス8件(2.3%)、ムンプスウイルス7件(2.0%)、エンテロウイルス、水痘・帯状疱疹ウイルスおよびアストロウイルス各5件(1.4%)、パレコウイルスおよびデングウイルス各4件(1.1%)、ロタウイルス3件(0.9%)、ヘルペスウイルス2件(0.6%)、麻しんウイルスおよびA型肝炎ウイルス各1件(0.3%)が検出された。

インフルエンザウイルスの型別検出状況は、A(H3)香港型が106件(59.9%)、B型山形系統が35件(19.8%)、A(H1)pdm09が27件(15.3%)、B型ビクトリア系統が9件(5.1%)であった。A(H3)香港型は1月から3月に多く、B型は3月から5月に多く検出された。患者報告数のピークとなった第3週から5週(1月中旬から2月上旬)はA(H3)香港型が流行の主流であると推定された。また、A(H1)pdm09およびB型山形系統が12月に多く検出されたことから、2017/2018シーズン前半はこの型が流行の主流であると推定された。

ノロウイルスの型別検出状況は、ノロウイルスGが111件(100.0%)、ノロウイルスGは認められず、1月から3月および12月の冬季に多く検出された。集団発生事例から検出されたノロウイルスの遺伝子型別結果は別表のとおりであった。

月別ウイルス検出状況

検出ウイルス	検出ウイルス	検出月												計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
インフルエンザウイルス ^(*)	A(H1)pdm09	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	26	27
	A(H3)香港型	43	27	22	7	1	-	-	-	-	1	1	4	106
	B型ビクトリア系統	1	1	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	9
	B型山形系統	1	1	2	2	8	1	-	-	-	-	1	19	35
エンテロウイルス ^(*)	コクサッキーウイルスA6型	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	4
	型別不能	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
アデノウイルス(呼吸器ウイルス) ^(*)	1型	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	3型	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	3
	53型	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
水痘・帯状疱疹ウイルス ^(*)		1	1	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	5
ヒトヘルペスウイルス ^(*)	6型 VariantB	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	2
麻しんウイルス ^(*)	D8型	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
RSウイルス ^(*)	サブクラスA	-	-	-	-	-	-	-	-	7	3	2	-	12
	サブクラスB	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1	1	4
ムンプスウイルス ^(*)	G型	-	-	-	-	2	1	1	-	-	-	1	-	5
	B型	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	型別不能	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
ヒトパレコウイルス ^(*)	1型	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	3型	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
	型別不能	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	2
デングウイルス ^(*)	1型	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	2
	2型	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
	3型	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
ノロウイルス ^(*)	G	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	G	25	9	14	-	4	2	9	-	-	1	-	47	111
ロタウイルス ^(*)	A群	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	3
A型肝炎ウイルス ^(*)	1A型	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
アデノウイルス(下痢症ウイルス) ^(*)		-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	3
アストロウイルス ^(*)		-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	1	-	5
	計	71	39	40	19	20	10	19	6	11	7	8	99	349

(*)PCR法で遺伝子検出 (*2)リアルタイムPCR法で遺伝子検出

ノロウイルスについては集団発生を含む

集団発生事例におけるノロウイルス遺伝子型別結果

検出月	事例数	遺伝子型
1月	4	G .2
2月	2	G .2
3月	1	G .2
5月	1	G .4 2012変異株
6月	1	G .4 2012変異株 / G .4
7月	2	G .4
10月	1	G .2
12月	1	G .4 2012変異株
	3	G .2

2 細菌検出状況

三類及び四類感染症の患者から分離された菌株について、同定試験、血清型及び毒素型検査を実施したところ、次のとおりであった。

検出月	疾病名	検出菌	検出数
5月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC O91:HUT (Stx1)	1
8月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC O103:H2 (Stx1)	1
		EHEC O157:H7 (Stx1,2)	1
		EHEC O157:H7 (Stx2)	2
		EHEC O157:HNM (Stx1,2)	1
		EHEC O157:HNM (Stx2)	1
		EHEC OUT:H16 (Stx2)	2
9月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC O157:H7 (Stx1,2)	1
10月	腸管出血性大腸菌感染症	EHEC O157:H7 (Stx2)	1
11月	レジオネラ症	<i>L.pneumophila</i> SG1	1
		<i>L.pneumophila</i> SG4	1
		<i>L.pneumophila</i> SG5	1

EHEC : 腸管出血性大腸菌

HNM : 非運動性

參考資料

1 感染症発生動向調査の指定届出機関一覧

平成29年10月1日現在

	患者定点						病原体定点				医療機関名称	主たる診療科	郵便番号	住所		
	小	内	イ	眼	S	基	疑	イ	指	小					眼	基
中北													隈部小児科医院	小	400-0855	甲府市中小河原1-14-3
													今井小児科	小	400-0854	甲府市中小河原町1589
													小松小児科医院	小	400-0062	甲府市池田1-11-7
													里吉内科クリニック	内	400-0822	甲府市里吉4-15-17
													横田内科小児科医院	小	400-0041	甲府市上石田2-30-44
													中島医院	小	400-0105	甲斐市下今井88-1
													森川医院	小	409-3863	中巨摩郡昭和町河東中島1903
													西野内科医院	小	409-3845	中央市山之神2389-1
													竹居医院	内	400-0007	甲府市美咲1-11-15
													桜林内科消化器科医院	内	400-0058	甲府市宮原町1336-1
													内科小児科小野医院	内	400-0065	甲府市真川2-2-11
													竜王共立診療所	内	400-0113	甲斐市富竹新田231-1
													大沢医院	内	400-0125	甲斐市長塚115-11
													井上内科小児科医院	内	400-0025	甲府市朝日1-4-12
													佐々木眼科医院	眼	400-0031	甲府市丸の内2-25-8
													二宮眼科医院	眼	400-0008	甲府市緑が丘1-5-14
													フルヤ眼科医院	眼	409-3841	中央市布施1990カイルピア1F
													梶山クリニック	産・婦	400-0047	甲府市德行1-3-20
													鈴木・野村泌尿器科医院	泌	400-0026	甲府市塩部1-11-12
													竜王レディースクリニック	産・婦	400-0115	甲斐市篠原2199
												市立甲府病院	他	400-0832	甲府市増坪町366	
												地方独立行政法人山梨県病院機構山梨県立中央病院	他	400-8506	甲府市富士見1-1-1	
												山梨大学医学部附属病院	他	409-3898	中央市下河東1110	
												古屋クリニック	内	409-3845	中央市山之神1533-21	
	8	6	14	3	3	3	18	1	2	1	3					
峡北支所												三井医院	小	407-0024	韮崎市本町1-11-8	
												にこにこクリニック こでら小児科	小	407-0033	韮崎市龍岡町下條南割1045	
												高畑内科小児科医院	小	400-0422	南アルプス市飯野2753	
												小池医院	小	407-0024	南アルプス市小笠原1717	
												いづかこどもクリニック	小	408-0034	北杜市長坂町大八田3874-1	
													北杜市立白州診療所	内	408-0315	北杜市白州町白須1341
													本町クリニック	内	407-0024	韮崎市本町2-19-3
													志村内科医院	内	400-0422	南アルプス市荊沢410
													千野眼科医院	眼	407-0024	韮崎市本町1-5-26
													堀内眼科	眼	400-0306	南アルプス市小笠原386
													まえざわクリニック	泌	407-0015	韮崎市若宮2-14-1
													女性クリニック秋山医院	眼	400-0221	南アルプス市在家塚155
													巨摩共立病院	他	400-0398	南アルプス市桃園340
													北杜市立甲陽病院	他	408-0034	北杜市長坂町大八田3954
	5	3	8	2	2	2	10	1	0	0	2					

	患者定点						病原体定点			医療機関名称	主たる診療科	郵便番号	住所			
	小	内	イ	眼	S	基	疑	イ指	小					眼	基	
峡東													篠原医院	内・小	406-0805	笛吹市御坂町栗合168
													三枝クリニック	内・小	406-0043	笛吹市石和町河内37-2
													あめみや医院	内・小	404-0046	甲州市塩山上井尻1419
													池田内科小児科医院	内・小	409-1300	甲州市勝沼町勝沼2961
													中央内科クリニック	内	405-0018	山梨市上神内川47
													飯島医院	内	405-0006	山梨市小原西5
													黒沢内科	内	406-0031	笛吹市石和町市部716-5
													古川眼科医院	眼	405-0006	山梨市小原西196-2
													古屋眼科	眼	406-0031	笛吹市石和町市部822-41
													加納岩総合病院	他	405-0018	山梨市上神内川1309
													長坂クリニック	産・婦	406-0033	笛吹市石和町小石和2645
													山梨厚生病院	他	405-0033	山梨市落合860
													甲州リハビリテーション病院	他	406-0032	笛吹市石和町四日市場2031
		4	3	7	2	2	2	9	1	0	0	2				
峡南													溝部医院	内	409-3600	西八代都市川三郷町市川大門1235
													南部町国民健康保険診療所	内	409-2212	南巨摩郡南部町南部8050
													身延町早川町国民健康保険病院一部事務組合立飯富病院	他	409-3423	南巨摩郡身延町飯富1628
													峡南医療センター企業団富士川病院	他	400-0601	南巨摩郡富士川町歎沢340-1
	2	1	3	0	0	1	4	1	0	0	1					
富士・東部													吉田医院	小	403-0005	富士吉田市中曽根1-5-10
													武井クリニック	小	402-0025	都留市法能669
													都留市立病院	他	402-0056	都留市つる5-1-55
													つゆきこどもクリニック	小	403-0004	富士吉田市下吉田8-18-29
													いしはらクリニック	小	401-0301	南都留郡富士河口湖町船津584-1
													堀田医院	内	401-0013	大月市大月1-5-20
													うえのクリニック	内	409-0126	上野原市モアアおつ3-22-5
													しまだ医院	内	403-0022	南都留郡西桂町小沼1710-1
													富士ニコニコクリニック	内	401-0301	南都留郡富士河口湖町船津1287
													小林眼科医院	眼	403-0017	富士吉田市新西原1-7-1
													野村眼科医院	眼	402-0005	都留市四日市場8-6
													武者医院	産・婦	401-0013	大月市大月1-15-18
													渡辺医院	産・婦	401-0301	南都留郡富士河口湖町船津1496
													富士吉田市立病院	他	403-0005	富士吉田市上吉田6530
												大月市立中央病院	他	401-0015	大月市大月町花咲1225	
	5	4	9	2	2	2	11	1	1	0	2					
合計	24	17	41	9	9	10	52	5	3	1	10					

【患者定点】

- 小：小児科定点
- 内：内科定点
- イ：インフルエンザ定点
- 眼：眼科定点
- S：性感感染症定点
- 基：基幹定点の病院
- 疑：疑似症定点

【病原体定点】

- イ指：インフルエンザ病原体定点(指定提出機関)
- 小：小児科病原体定点
- 基：基幹病原体定点
- 眼：眼科病原体定点

2 全数把握対象感染症の報告数

疾 病	報 告 数		疾 病	報 告 数	
	全 国	山 梨		全 国	山 梨
1類感染症			ニバウイルス感染症	-	-
エボラ出血熱	-	-	日本紅斑熱	337	-
クリミア・コンゴ出血熱	-	-	日本脳炎	3	-
痘そう	-	-	ハンタウイルス肺症候群	-	-
南米出血熱 ^{*1}	-	-	Bウイルス病	-	-
ペスト	-	-	鼻疽 ^{*1}	-	-
マールブルグ病	-	-	ブルセラ症	2	-
ラッサ熱	-	-	ベネズエラウマ脳炎 ^{*1}	-	-
2類感染症			ヘンドラウイルス感染症 ^{*1}	-	-
急性灰白髄炎	-	-	発しんチフス	-	-
結核 ^{*1}	23,447	88	ポツリヌス症	4	-
ジフテリア	-	-	マラリア	61	-
重症急性呼吸器症候群 ^{*2*3} (SARSコロナウイルスに限る)	-	-	野兔病	-	-
中東呼吸器候群 ^{*12} (MERSコロナウイルスに限る)	-	-	ライム病	19	-
鳥インフルエンザ(H5N1) ^{*5}	-	-	リッサウイルス感染症	-	-
鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*12}	-	-	リフトバレー熱 ^{*1}	-	-
3類感染症			類鼻疽 ^{*1}	1	-
コレラ ^{*2}	7	-	レジオネラ症	1,731	8
細菌性赤痢 ^{*2}	141	-	レプトスピラ症	47	-
腸管出血性大腸菌感染症	3,904	11	ロッキー山紅斑熱 ^{*1}	-	-
腸チフス ^{*2}	37	-	5類感染症		
バラチフス ^{*2}	14	-	アmeerバ赤痢	1,089	4
4類感染症			ウイルス性肝炎 (E型肝炎及び A型肝炎を除く)	295	4
E型肝炎	305	-	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 ^{*11}	1,660	5
ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	-	-	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、 ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、 ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く) ^{*3}	701	4
A型肝炎	285	1	クリプトスポリジウム症	19	-
エキノкокクス症	26	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	200	7
黄熱	-	-	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	588	2
オウム病	14	1	後天性免疫不全症候群	1,391	7
オムスク出血熱 ^{*1}	-	-	ジアルジア症	60	-
回帰熱	8	-	侵襲性インフルエンザ菌感染症 ^{*8}	372	3
キャサナル森林病 ^{*1}	-	-	侵襲性髄膜炎菌感染症 ^{*8}	25	-
Q熱	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症 ^{*8}	3,204	19
狂犬病	-	-	水痘 (入院例) ^{*11}	313	2
コクシジオイデス症	4	-	先天性風しん症候群	-	-
サル痘	-	-	梅毒	5,820	14
ジカウイルス感染症 ^{*13}	5	-	播種性クリプトコックス症 ^{*11}	136	4
重症熱性血小板減少症候群 ^{*7} (SFTSウイルスに限る)	90	-	破傷風	125	1
腎症候性出血熱	-	-	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-
西部ウマ脳炎 ^{*1}	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	83	-
ダニ媒介脳炎 ^{*1}	2	-	風しん ^{*4}	91	-
炭疽	-	-	麻しん ^{*4}	187	1
チクングニア熱 ^{*6}	5	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症 ^{*11}	28	-
つつが虫病	448	1	新型インフルエンザ等感染症^{*5}		
デング熱	245	4	新型インフルエンザ	-	-
東部ウマ脳炎 ^{*1}	-	-	再興型インフルエンザ	-	-
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く) ^{*10}	-	-			

2 - 1 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等の 改正に伴う変更の経緯

平成19年4月1日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律改正に伴う変更点

*1：新規追加された疾病 *2：類型変更された疾病 *3：名称変更された疾病

平成20年1月1日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則改正に伴う変更点

*4：定点把握から全数把握に変更された疾病

平成20年5月12日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則改正に伴う変更点

*5：新規追加された疾病

平成23年2月1日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行令一部改正に伴う変更点

*6：新規追加された疾病

平成25年3月4日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行令一部改正に伴う変更点

*7：新規追加された疾病

平成25年4月1日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則一部改正に伴う変更点

*8：新規追加された疾病

平成25年5月6日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行令一部改正に伴う変更点

*9：新規追加された疾病 *10 名称変更された疾病

平成26年9月19日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則一部改正に伴う変更点

*11：新規追加された疾病

平成26年11月21日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律一部改正に伴う変更点

*12：類型変更された疾病(施行は平成27年1月21日)

平成28年3月30日 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則一部改正に伴う変更点

*13：新規追加された疾病

3 定点把握対象感染症の報告数と定点当たり報告数（平成29年）

疾 病	全 国		山 梨 県	
	報告数	定点当たり 報告数	報告数	定点当たり 報告数
RSウイルス感染症	139,557	44.21	641	26.71
咽頭結膜熱	92,269	29.23	1,000	41.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	367,325	116.35	2,897	120.71
感染性胃腸炎	871,922	276.19	6,088	253.67
水痘	60,162	19.06	255	10.63
手足口病	358,806	113.65	2,503	104.29
伝染性紅斑	12,436	3.94	57	2.38
突発性発しん	73,303	23.22	347	14.46
百日咳	1,661	0.53	110	4.58
ヘルパンギーナ	86,045	27.26	305	12.71
流行性耳下腺炎	77,884	24.67	670	27.92
小児科定点(週報) 計	2,141,370	678.31	14,873	619.73
インフルエンザ	1,614,999	326.66	12,287	299.68
インフルエンザ定点(週報) 計	1,614,999	326.66	12,287	299.68
急性出血性結膜炎	441	0.63	3	0.33
流行性角結膜炎	26,736	38.47	363	40.33
眼科定点(週報) 計	27,177	39.10	366	40.66
性器クラミジア感染症	24,825	25.13	153	17.00
性器ヘルペスウイルス感染症	9,308	9.42	120	13.33
尖圭コンジローマ	5,437	5.50	15	1.67
淋菌感染症	8,107	8.21	55	6.11
STD定点(月報) 計	47,677	48.26	343	38.11
細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因とした場合を除く)	523	1.10	10	1.00
無菌性髄膜炎	956	2.00	11	1.10
マイコプラズマ肺炎	8,360	17.53	158	15.80
クラミジア肺炎(オウム病は除く)	265	0.56	5	0.50
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	4,974	10.43	56	5.60
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	16,550	34.55	152	15.20
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2,001	4.18	7	0.70
薬剤耐性緑膿菌感染症	128	0.27	2	0.20
基幹定点(週報、月報) 計	33,757	70.62	401	40.10

4 前年（平成28年）との定点当たり報告数の比較

疾 病	全 国			山 梨			山梨/全国	
	H28年 2016(A)	H29年 2017(B)	(B)/(A)	H28年 2016(C)	H29年 2017(D)	(D)/(C)	H28年 (C)/(A)	H29年 (D)/(B)
RSウイルス感染症	33.18	44.21	1.33	23.79	26.71	1.12	0.72	0.60
咽頭結膜熱	21.38	29.23	1.37	18.00	41.67	2.32	0.84	1.43
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	116.54	116.35	1.00	113.00	120.71	1.07	0.97	1.04
感染性胃腸炎	353.87	276.19	0.78	294.63	253.67	0.86	0.83	0.92
水痘	20.72	19.06	0.92	14.96	10.63	0.71	0.72	0.56
手足口病	21.91	113.65	5.19	22.83	104.29	4.57	1.04	0.92
伝染性紅斑	16.29	3.94	0.24	22.71	2.38	0.10	1.39	0.60
突発性発しん	24.17	23.22	0.96	16.04	14.46	0.90	0.66	0.62
百日咳	0.95	0.53	0.56	1.13	4.58	4.05	1.19	8.64
ヘルパンギーナ	40.99	27.26	0.67	46.13	12.71	0.28	1.13	0.47
流行性耳下腺炎	50.39	24.67	0.49	24.83	27.92	1.12	0.49	1.13
小児科定点 計	700.39	678.31	0.97	598.05	619.73	1.04	0.85	0.91
インフルエンザ	354.58	326.66	0.92	355.41	299.68	0.84	1.00	0.92
インフルエンザ定点 計	354.58	326.66	0.92	355.41	299.68	0.84	1.00	0.92
急性出血性結膜炎	0.58	0.63	1.09	0.33	0.33	1.00	0.57	0.52
流行性角結膜炎	37.72	38.47	1.02	19.67	40.33	2.05	0.52	1.05
眼科定点 計	38.30	39.10	1.02	20.00	40.66	2.03	0.52	1.04
性器クラミジア感染症	24.77	25.13	1.01	18.22	17.00	0.93	0.74	0.68
性器ヘルペスウイルス 感染症	9.31	9.42	1.01	9.33	13.33	1.43	1.00	1.42
尖圭コンジローマ	5.82	5.50	0.95	2.11	1.67	0.79	0.36	0.30
淋菌感染症	8.42	8.21	0.98	2.89	6.11	2.11	0.34	0.74
STD定点 計	48.32	48.26	1.00	32.55	38.11	1.17	0.67	0.79
細菌性髄膜炎	1.03	1.10	1.07	0.60	1.00	1.67	0.58	0.91
無菌性髄膜炎	2.89	2.00	0.69	2.20	1.10	0.50	0.76	0.55
マイコプラズマ肺炎	41.34	17.53	0.42	28.80	15.80	0.55	0.70	0.90
クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	0.74	0.56	0.76	0.30	0.50	1.67	0.41	0.89
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	11.04	10.43	0.94	2.80	5.60	2.00	0.25	0.54
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	34.10	34.55	1.01	14.80	15.20	1.03	0.43	0.44
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	4.18	4.18	1.00	0.80	0.70	0.88	0.19	0.17
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.33	0.27	0.82	0.30	0.20	0.67	0.91	0.74
基幹定点 計	95.65	70.62	0.74	50.60	40.10	0.79	0.53	0.57

5 定点把握対象感染症の定点当たり報告数の推移（平成25年～29年）

疾 病	全国					山梨県				
	H25年 2013	H26年 2014	H27年 2015	H28年 2016	H29年 2017	H25年 2013	H26年 2014	H27年 2015	H28年 2016	H29年 2017
RSウイルス感染症	30.72	31.93	38.16	33.18	44.21	13.17	14.88	22.67	23.79	26.71
咽頭結膜熱	23.22	25.12	22.93	21.38	29.23	7.67	17.33	8.17	18.00	41.67
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	80.83	96.78	127.55	116.54	116.35	68.38	66.88	117.79	113.00	120.71
感染性胃腸炎	340.93	319.68	314.02	353.87	276.19	308.92	264.17	251.08	294.63	253.67
水痘	55.70	50.15	24.67	20.72	19.06	33.75	24.50	14.92	14.96	10.63
手足口病	96.54	26.62	121.34	21.91	113.65	127.25	9.96	73.58	22.83	104.29
伝染性紅斑	3.22	10.29	31.32	16.29	3.94	1.25	1.50	30.50	22.71	2.38
突発性発しん	28.47	27.99	27.00	24.17	23.22	18.79	17.42	17.54	16.04	14.46
百日咳	0.53	0.66	0.85	0.95	0.53	0.38	0.25	0.17	1.13	4.58
ヘルパンギーナ	30.16	43.59	31.22	40.99	27.26	11.67	46.38	39.58	46.13	12.71
流行性耳下腺炎	13.05	14.74	25.76	50.39	24.67	5.67	4.17	3.96	24.83	27.92
小児科定点 計	703.37	647.55	764.82	700.39	678.31	596.90	467.44	579.96	598.05	619.73
インフルエンザ	237.20	354.44	237.42	354.58	326.66	242.98	294.25	220.13	355.41	299.68
インフルエンザ定点 計	237.20	354.44	237.42	354.58	326.66	242.98	294.25	220.13	355.41	299.68
急性出血性結膜炎	0.98	0.61	0.72	0.58	0.63	0.56	0.22	0.11	0.33	0.33
流行性角結膜炎	30.26	29.62	36.44	37.72	38.47	11.11	18.78	21.78	19.67	40.33
眼科定点 計	31.24	30.23	37.16	38.30	39.10	11.67	19.00	21.89	20.00	40.66
性器クラミジア感染症	26.29	25.60	24.95	24.77	25.13	16.22	12.44	13.89	18.22	17.00
性器ヘルペスウイルス 感染症	9.01	8.87	9.16	9.31	9.42	8.22	10.11	9.78	9.33	13.33
尖圭コンジローマ	5.90	5.83	5.92	5.82	5.50	1.67	2.56	2.44	2.11	1.67
淋菌感染症	9.74	10.06	8.88	8.42	8.21	2.22	1.00	1.89	2.89	6.11
STD定点 計	50.94	50.36	48.91	48.32	48.26	28.33	26.11	28.00	32.55	38.11
細菌性髄膜炎	0.95	0.83	0.95	1.03	1.10	0.40	0.20	0.70	0.60	1.00
無菌性髄膜炎	2.75	1.90	2.24	2.89	2.00	0.10	0.30	5.80	2.20	1.10
マイコプラズマ肺炎	24.07	13.63	21.73	41.34	17.53	7.20	2.30	12.00	28.80	15.80
クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	1.59	0.68	0.86	0.74	0.56	1.70	0.80	0.30	0.30	0.50
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	-	8.48	9.12	11.04	10.43	-	1.60	6.80	2.80	5.60
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	42.43	37.82	35.61	34.10	34.55	13.20	14.70	18.00	14.80	15.20
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	6.65	4.81	4.29	4.18	4.18	0.80	1.00	1.20	0.80	0.70
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.67	0.56	0.45	0.33	0.27	0.60	0.20	0.80	0.30	0.20
薬剤耐性アシネトバク ター感染症	0.02	0.01				0.00	0.00			
基幹定点 計	79.13	68.72	75.25	95.65	70.62	24.00	21.10	45.60	50.60	40.10

平成25年10月14日から追加指定

6 感染症発生動向調査の調査報告週対応表

平成 29 年

週	調査週間	週	調査週間	週	調査週間
1	1/2 ~ 1/8	19	5/8 ~ 5/14	37	9/11 ~ 9/17
2	1/9 ~ 1/15	20	5/15 ~ 5/21	38	9/18 ~ 9/24
3	1/16 ~ 1/22	21	5/22 ~ 5/28	39	9/25 ~ 10/1
4	1/23 ~ 1/29	22	5/29 ~ 6/4	40	10/2 ~ 10/8
5	1/30 ~ 2/5	23	6/5 ~ 6/11	41	10/9 ~ 10/15
6	2/6 ~ 2/12	24	6/12 ~ 6/18	42	10/16 ~ 10/22
7	2/13 ~ 2/19	25	6/19 ~ 6/25	43	10/23 ~ 10/29
8	2/20 ~ 2/26	26	6/26 ~ 7/2	44	10/30 ~ 11/5
9	2/27 ~ 3/5	27	7/3 ~ 7/9	45	11/6 ~ 11/12
10	3/6 ~ 3/12	28	7/10 ~ 7/16	46	11/13 ~ 11/19
11	3/13 ~ 3/19	29	7/17 ~ 7/23	47	11/20 ~ 11/26
12	3/20 ~ 3/26	30	7/24 ~ 7/30	48	11/27 ~ 12/3
13	3/27 ~ 4/2	31	7/31 ~ 8/6	49	12/4 ~ 12/10
14	4/3 ~ 4/9	32	8/7 ~ 8/13	50	12/11 ~ 12/17
15	4/10 ~ 4/16	33	8/14 ~ 8/20	51	12/18 ~ 12/24
16	4/17 ~ 4/23	34	8/21 ~ 8/27	52	12/25 ~ 12/31
17	4/24 ~ 4/30	35	8/28 ~ 9/3		
18	5/1 ~ 5/7	36	9/4 ~ 9/10		

< 山梨県感染症情報センターホームページ >

The screenshot shows the homepage of the Yamanashi Prefectural Infectious Disease Surveillance Center. At the top, there is a navigation bar with links for '暮らし・防災', '教育・子育て', '医療・健康・福祉', 'まちづくり・環境', 'しごと・産業', '観光・魅力', and '県政情報・統計'. Below this is a search bar and a '検索' button. The main content area features a large banner with the center's name in Japanese and English: '山梨県 感染症情報センター' and 'Yamanashi Prefectural Infectious Disease Surveillance Center'. Below the banner, there is a section titled '山梨県内の感染症の発生状況や感染症に関する各種情報を掲載しています' (We publish various information about the occurrence of infectious diseases in Yamanashi Prefecture and related information). This section contains several buttons for '感染症発生動向 週報・月報', '感染症 届出基準', '報道発表 資料', '感染症の 基礎知識', '国からの 通知関係', '病原体 検出状況', and '学校・保育園等 欠席状況'. On the right side, there is a sidebar titled '衛生環境研究所' (Institute of Health and Environment) with a list of links including '山梨県感染症情報センター', 'イベント情報2018', '調査研究', '用生活活科', '食品医薬品科', '大気科', '水質科', '廃棄物科', '衛生動物科', '細菌科', 'ウイルス科', '山梨県衛生環境研究所リンク集', and '更新履歴'. The page also includes social media icons for Twitter and Facebook, and a '更新日: 2018年10月4日' (Updated: October 4, 2018) notice.

山梨県感染症情報センターホームページでは県内の感染症の発生状況や感染症に関する最新の情報を掲載しています。

(URL) <http://www.pref.yamanashi.jp/eikanken/kansensyosenta.html>

感染症発生動向調査事業報告書

平成 29 年版

平成 30 年 11 月 発行

編集・発行 山梨県感染症情報センター
(山梨県衛生環境研究所)

〒400-0027 山梨県甲府市富士見 1-7-31

電話 055-253-6721

FAX 055-253-5637

E-mail eikanken@pref.yamanashi.lg.jp

<http://www.pref.yamanashi.jp/eikanken/kansensyosenta.html>